ライオン誌4月号 2007年（平成19年）3月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第49巻第10号

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

April 2007

4

THEME LCIFスタディ・ツアー
PICK UP いのちの尊さ
ROAR 333複合地区

第49巻第10号

We Serve

CONTENTS

ライオンズクラブ国際協会公式機関誌『ライオン』誌日本語版ウェブ・マガジン

https://www.thelion-mag.jp/

『ライオン』誌日本語版では現在、新鮮な情報を迅速に発信すると共に、豊富な資料をいつでも手軽に利用して頂けるよう、ウェブマガジン（https://www.thelion-mag.jp/）を公開している。主要コンテンツは「ニュース」「トピックス」「イベント」「ライオンズ情報資料」「ライオン誌日本語版」で、本誌とは別のオリジナル企画も用意している。更に、「ライオン誌出版物オンライン・ショップ」「ライオン誌フォト・ライブラリー」「各種書式／ロゴ　ダウンロード」「国際協会公式サイトお役立ちナビ」「Web伝言板」なども設置しているので、ぜひご活用頂きたい。

『ライオン』誌日本語版ウェブマガジン・ハイライト

世界のライオンズ（「トピックス」内：https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=2）

イギリス：ウォーキン・ライオンズクラブ

●1977年結成｜会員数29人｜平均年齢60歳

結成30周年を迎えたイギリスのクラブ。他のボランティア団体などと情報交換して作成した貧困家庭のデータベースを基に、地域の貧困家庭180世帯にクリスマス・プレゼントを贈っている。

＞ https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=2

アメリカ・マサチューセッツ州：アッシュランド・ライオンズクラブ

●1967年結成｜会員数110人｜平均年齢50～55歳

ボストン郊外、人口1万5,000人の小さな町の元気なライオンズ。毎月2回、500～1,000ドルもの収益を上げてクラブの活動資金源となっている「お肉の宝くじ」とは？

＞ https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=50

ロシア：グレート・ベアー・サンクトペテルブルク・ライオンズクラブ

●2003年結成｜会員数21人｜平均年齢40～50歳

企業からの資金や物資の提供を受けながら、重度障害児の美術館招待などのアクティビティに取り組むロシアのライオンズクラブ。

＞ https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=49

タイ：バンコク・ズシット・ライオンズクラブ

●1966年結成｜会員数38人｜平均年齢48歳

＞ https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=48

ドイツ：ボン・ライン・ライオンズクラブ

●1993年結成｜会員数30人｜平均年齢56歳

＞ https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=47

国際会長メッセージ

レオは50年前のすばらしい発想

2006-07年度国際会長
ジミー・M・ロス

「若者は若さを無駄にしている」という言葉を、皆さんも耳にしたことがあるでしょう。それは全くの誤解であり、最初に言い出した人物が誰であるにせよ、青少年と深くかかわった経験がないことは明らかです。若者は活力、理想、情熱にあふれ、何一つ無駄になどしていません。彼らの集まる部屋に足を踏み入れれば、目的と意欲に満ちたざわめきが聞こえてくるはずです。

レオクラブの大きな利点は、青少年の理想と能力を高め、奉仕に向かわせることにあります。私は国際会長として世界中を旅する中で、レオの活躍を目の当たりにすることが出来ました。彼らは高齢者を訪問し、公園や道路の清掃に励み、障害者施設の建設を支援しています。実に喜ばしいことに、その活力は留まるところを知りません。

確かに全体として考えれば、私たちは成人の会員を増強する必要があります。しかし、レオはすばらしい家族の一員であり、その力も忘れてはならないでしょう。ライオンズの支援によって、レオは奉仕の価値を学び、地域社会の改善に手を貸しています。

最初のレオクラブが誕生してから、今年で50周年を迎えます。その誕生の経緯を振り返れば、優れた教訓が得られるはずです。青少年を奉仕に参加させることは、創立者メルビン・ジョーンズの指示でもなければ、国際本部の着想でもありません。それは、野球コーチとして若者を指導していたアメリカ・ペンシルベニア州の会員、ジム・グレーバーの発案でした。彼はライオンズの垂範と支援が青少年に奇跡をもたらすと確信し、高校生の奉仕クラブの結成を自分のクラブに要請したのです。

私たちは、ジムの実現した「パラダイム・シフト」を称賛すべきです。彼は必要を見極め、異なった方法を模索し、クラブと共に全力を傾けて変革を成し遂げました。積極的で有能な会員の誰かが、今もどこかで人々の必要に応え、新たな事業に着手しているかもしれません。そして50年後には、世界中の会員がその洞察力と粘り強さをたたえているかもしれません。

偉大なる発想は、自然に実を結んでいくものです。レオクラブは青少年に指導力を身に着けさせ、地域社会に参加する機会を与えています。私たちはその成功を祝福すべきであり、レオを誕生させ発展させた前例に倣うべきです。ライオンズは現状に留まることなく、常に前進し続けなければなりません。そのためには、活力のみならず知恵が必要です。「知恵は年齢と共に身につくもの」と言いますが、この言葉には、私も同意します。

LCIFスタディ・ツアー

ライオニズムの原点に出合った旅

日本・フィリピン合同医療奉仕／恵まれない子どもたちのための活動

2月9日から13日まで、LCIF事業を視察するスタディ・ツアーが実施され、日本各地から30人の会員・家族がフィリピンを訪問した。一行は10日に334-E地区（長野県／石田貞夫地区ガバナー）の「日本・フィリピン合同医療奉仕」、11日に国際協会とジョンソン&ジョンソンが共同で取り組む小児失明防止事業「サイト・フォー・キッズ」、12日にストリートチルドレンの援護施設と貧困地域の図書館を視察した。

■ライオン誌ウェブマガジンにも関連記事が掲載されています

- スタディ・ツアー参加者感想：https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd0/index.php?id=56
- スタディ・ツアー・アルバム：https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd1/index.php?id=50
- 石田貞夫地区ガバナー・インタビュー：https://www.thelion-mag.jp/modules/enikki2/

「まるで金縛りにあったように立ち尽くしてしまいました。そして、涙が出てしまいました。これぞライオンズクラブ」（ライオン野川亘／山形県・天童舞鶴ライオンズクラブ）

334・E地区の医療奉仕に立ち会った参加者たちは、日本とフィリピンの会員、医師たちの献身的な活動に大きな感動を覚えたようだ。スタディ・ツアー4回目の参加となるライオン有野勇（兵庫県・三木ライオンズクラブ）は、帰国後、こんなメールをくれた。

「今までは施設など箱物の視察が中心でしたが、今回、医療奉仕の現場を目の当たりにして鳥肌が立ちました。私も今後、海外で何か労力奉仕が出来たらなあ、と思っています」

アクティビティは現場主義 334・E地区の情熱

「日本・フィリピン合同医療奉仕」は今年で32回目。毎年、地区年次大会の決議を経て、地区内全クラブの協力により実施している。受け入れ側の301・D2地区も、診療場所の選定や住民への広報、フィリピン人医師の確保などで協力。更にこの事業にはフィリピン政府も大きな期待を寄せ、同国社会福祉開発省が窓口となって、日本側の医療活動を全面的にサポートしている。

ここ数年は日本から130〜140人が医療奉仕団に参加、2日間で4カ所を訪問し、約1万人を診療している。今回も2班に分かれ四つの地域で診療を実施。このうち、スタディ・ツアーの一行が視察したのは、マニラから車で1時間程のリサール州ロドリゲス町（旧モンタルバン）カシグラハン地区だった。

今回の医療奉仕には日本から136人の会員･家族及び医療関係者が参加。4カ所で合計9,154人を診療した

モンタルバンは、もともとは小高い山に囲まれた農村で、山間の湿地帯には水田が広がっていた。が、近年、山を削り、水田をつぶして再定住用の住宅建設が進められた。都市貧民をスラムから強制的に移住させるためで、モンタルバン・ハイツとカシグラハン・ビレッジの2カ所が造成された。

「至福」という意味を持つカシグラハンには、ケソン市のごみ集積場パヤタスから約400世帯が移住してきた。彼らは2000年7月にパヤ

タスで起きたごみ山の大崩落により被災した人たちだった。

が、「至福」とは名ばかり。医療面で言えば、唯一の病院は週2回の開院で、しかも助産婦が1人いるだけの状態だという。また、仕事がないため、住民たちはパヤタスのごみ集積場へ通い、スカベンジャー（リサイクル出来るごみを拾って廃品業者に売る人たち）として働いている。

フィリピンではごみの焼却は行わず、分別しないまま集積場へ運び山積みにする。従って、ごみの中にはアルミ缶や鉄、ビニールなど、換金・再資源化出来るものもあるのだ。

カシグラハンの診療場所には、こうしたスカベンジャーも多く訪れた。彼らには、ある共通点が見られた。

「気管支系の病気が多かったですね。中には、ぜんそくや肺炎を起こしている人もいました」

スタディ・ツアー参加者で、診療を手伝った帖佐理子さん（内科医／鹿児島県・薩摩川内）は、そう話す。

ごみ山から有毒ガスや煙が発生し、大気が汚染されているためだ。またこれらの人たちは、貧しいがゆえに薬を買うことすら出来ない。

「普段、薬など飲まないから耐性がないんですね。薬は驚く程良く効きます。まるで魔法のように思えるんでしょう。皆、ものすごく感謝してくださる。しかし、限界もあります。例えば歯科の場合、日本であれば抜かずに治療する歯でも、後のケアが出来ないため抜かざるを得ない。内科、眼科も含め、やればやる程ジレンマに陥ることもありますよ」

と、太田道信元地区ガバナー（歯科医／長野県・岡谷ライオンズ(クラブ)）。

そうした根本的な問題を前に、地区内では以前からさまざまな議論がなされている。そこで今回、石田貞夫地区ガバナーは新たな方向性を探るため、パヤタスのごみ集積場を訪問し、現地で活動する日本のNGO「SALT(ソルト)」から話を聞いてきた。

母(ライオン)若松郁子とツアーに参加した帖佐さんも飛び入り診療

「パヤタスで暮らす人たちが置かれている状況を聞くことが出来ました。当地区の伊那ライオンズ(クラブ)が、7年前から有志で支援活動をしているので、その意見も聞きながら、今後、いろいろな可能性を検討していく予定です。例えば今すぐではないにしろ、現地に診療所を設置し、これまでのような年に1回ではなく、複数回、医療班を派遣することも考えられます。言うまでもなく、ライオンズクラブの原点はアクティビティにあります。そしてアクティビティとは現場主義です。その大前提を踏まえた上で、アイデアを出し合い、より良い方向へ持って行きたいと思っています」（石田ガバナー）

スタディ・ツアー一行が大きな感動と共に手放しで賛辞を送った医療奉仕だが、当事者は更なる高みを目指していた。日本が誇るアクティビティとして、今後も目が離せない。

子どもたちの笑顔が アクティビティの原動力

今回の視察先で、日本のライオンズがかかわったもう一つの事業も、パヤタスでの活動だった。パヤタスは広大な地域で、大きなごみ集積場がある一方、大地主が所有する大分譲地もある。愛知県・名古屋ウエスト・ライオンズクラブが、地元ライオンズと共同で、スラムの子どもたちのために作った図書館は、このパヤタスのブルックサイド地区にある。

目的地の直前、一行を乗せたバスは、ゲートを二つ通った。ゲートとゲートの間はフィル・インベストと呼ばれる、丘の上の閑静な分譲地。実はこの中が、ブルックサイドへつながる唯一の舗装道路でもあるのだ。黒澤明監督の映画『天国と地獄』を思い浮かべてしまうような展開だった。

が、実際のブルックサイドは、コンクリートで出来たカラフルな家が建ち並び、スラムとは思えない程、奇麗な町だった。それもそのはず、「愛の家作り運動」を展開するフィリ

ストリートチルドレンの援護施設で、子どもたちとタガログ語で談笑するスタディ・ツアー参加者ライオン平山重登（福岡県・久留米ライオンズクラブ）

ピンのＮＧＯ「ガワッド・カリンガ」により、町全体が生まれ変わったのだ。家は各国ＮＧＯの協力で作られ、ガワッド・カリンガ・プラザと呼ばれる町の中心に、教会と小学校、そして目指す図書館が建っていた。

　この様変わりには、図書館建設時のクラブ会長でツアー団長を務めたライオン鈴木宸祥も最初は戸惑ったようだが、「奇麗になった町で、子どもたちが明るく楽しく、前向きに勉強しているのを見て、とても安心しました」と、うれしそうに話していた。

　すべての視察を終えて、参加者からは「感動」と共に、「誇り」という言葉も聞かれた。ライオン尾山剛（愛知県・幸田ライオンズクラブ）の感想。

「今まで４カ国のスタディ・ツアーに参加しましたが、それぞれの国にそれぞれのニーズがあることを感じました。その中で共通するものは医療と子どもの教育であり、ライオンズは国際的に、その役割を極めて大きく務めていることが再認識出来、また同時に、ＬＣＩＦに献金していることを誇りに思いました」

「感動」と「誇り」。この二つはライオンズ会員の特権であろう。どうやら参加者たちは、スタディ・ツアーで、その両方を手に入れたようだ。

↑ブルックサイドの町並み。奥が図書館
↓図書館で子どもたちと一緒に本を読む地元クラブ会員

国際理事だより

■国際理事
谷野徹
（山口県・下関ウエスト）

春。桜前線が南から北へ、一年中でいちばん良い季節を迎えました。

今月から日本全国33準地区で、引き続いて8複合地区で年次大会が開催されていきます。

ほとんどの地区大会は、大きく分けて三つのプログラムで構成されています。

まず、地区内のクラブ、会員同士の友愛と相互理解の精神を養い、更には会員としての素養を身につけるための各種行事（親睦ゴルフ、懇親会並びに記念講演など）。

それからクラブで任命された代議員が、所管の重要案件を審議決定する分科会と、国際役員、地区役員の推薦や選出、監査報告、分科会報告の審議など、地区運営についてのあらゆる事案について審議決定する代議員総会。

三つ目が大会最大のイベントである大会式典で、代議員総会の報告、ガバナー年次報告、アワード発表、地区ガバナー・エレクト、副地区ガバナーの選挙結果発表とあいさつを経て、次回の開催地とホストクラブが発表され大会の幕を閉じます。

代議員派遣はクラブの義務。投票は代議員の義務

複合地区大会も地区大会と同じようなプログラムで運営され、地区による提案事項も含めて複合地区内のあらゆる重要案件について審議決定され、ガバナー協議会議長がその運営の責に当たります。

地区、複合地区大会では国際協会への提案事項を決議することが出来ます。また、国際第2副会長及び国際理事立候補者は所属する準地区と複合地区の年次大会における推薦決議を経て初めて国際大会での立候補者の資格を得ることになります。

地区、複合地区大会、国際大会の代議員派遣には費用が発生します。そのため、代議員派遣の義務及び必要性を認識していても、クラブにその力がなければ個人の負担に期待する他方法がなく、代議員登録を強く要請することが難しくなるかもしれません。しかし、簡単にあきらめるのではなく、解決策を考えてみてください。

代議員投票は我々の義務であり権利です。特に多額の費用が掛かる国際大会への派遣には、例えば、例年当該期のクラブ会長を代議員とクラブで決定し、毎月少額でも全員で資金カンパを行い、その全部または一部を費用に充てるなどの方法も考えられます。個人の負担に頼るばかりでなく、クラブの代表を送り出すことを考えてください。

最後に、昨年、アメリカ・マサチューセッツ州ボストンで開催された国際大会への参加結果を報告し、今後の目標について触れてみたいと思います。

参加総数（大会登録数）は1万2802人。最も多かったのはアメリカで5659人、日本は2位で1315人でした。代議員総数は4847人、うち日本は427人。実際の投票者数は4442人、うち日本は395人となっています。

この結果から日本の複合地区国際大会委員長連絡会議では、今年7月のシカゴ国際大会に向けて、目標代議員数を千人、最低でも800人を派遣すべく努力しています。高いハードルですが、ぜひとも皆で協力して乗り越えましょう。大会で我々の意思を大きな声で主張しようではありませんか。

ライオンズの故郷シカゴで開かれる 2007年国際大会情報

Sweet Home CHICAGO

『ライオン』誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）には、大会日程や開催地シカゴの魅力などの情報を掲載。「イベント」→「国際大会」ページをご覧ください

シカゴならでは、のチャンスをお見逃しなく！

国際大会では参加者を楽しませる企画がたくさん。今回はシカゴならではのプログラムをご紹介します。

協会の中枢、国際本部見学ツアー

シカゴはライオンズ発祥の地で、本拠地でもあります。創設以来シカゴ市内に置かれていた国際本部は、1971年にシカゴの西約20キロのオークブルック市に移り、現在に至ります。今大会ではこの本部見学ツアーが組まれています。ハイライトは、メルビン・ジョーンズの愛用品を展示する創設者の部屋。ロールアップデスクとライオンの敷物は、かのウインストン・チャーチルの贈り物です。国際会長の執務室（写真）ではぜひ記念撮影をどうぞ。ツアーはバスでの往復移動を含めて所要時間3時間。料金は19ドル。スケジュールや予約の情報は国際協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）トップの「行事予定」から「シカゴ国際大会」をクリックし「ツアー情報」をご覧ください。国際協会はツアー利用を推奨していますが、個人の見学も受け付けます。見学は音声ガイド（日本語あり／所用40分）利用で料金は5ドル。予め希望日時の申請が必要です。詳細は前述のウェブサイトをご参照ください。

球場で「ライオンズの夕べ」

7月4日（水）、セルラー球場でのシカゴ・ホワイトソックス対ボルチモア・オリオールズ戦は「ライオンズ・ナイト」。ライオンズのPRを図ると共に、チケット代から5ドルがLCIFへ寄付されます。ホワイトソックスは05年ワールド・シリーズの優勝チーム。井口資仁選手の活躍を覚えている方も多いでしょう。試合開始は18時5分、チケットは1階席（Lower Reserved）25ドル、外野席（Bleachers）21ドル、上階席（Upper Reserved）15ドル。申し込み受付は5月15日まで、担当のゾーン・チェアパーソン、ライオンスティーブ・アントン（Steve Anton／Eメール：

シカゴの魅力発見④

食の祭典を楽しむ

シカゴ市民は食べることが大好き！　シカゴ名物と言えば、皿状の生地にチーズや具をたっぷり入れたディープディッシュピザに、チーズやキャラメルがけのポップコーン、そしてピクルスにタマネギ、トマトやピーマンなどを乗せマスタードで食べるシカゴ風ホットドック。いかにもアメリカらしい食べ物ばかりだが、もちろん人種のるつぼアメリカだけに世界各国の料理が味わえる。

うれしいことに、国際大会会期中には世界最大と言われるフード・フェスティバル「テースト・オブ・シカゴ」が開かれる。夏のシカゴは野外イベントが目白押しだが、ダントツの人気を誇るのがこの食の祭典。ミシガン湖畔の広大なグラント公園に約100店のレストランが自慢の料理をひっさげて軒を並べる。更に有名アーティストによる無料コンサートというオマケも。これは楽しむしかないでしょう。ただし、食いしん坊のシカゴ市民の肥満率は全米でもトップクラスとか……。くれぐれも食べ過ぎにはご注意を！

ブランデル第2副会長が国内3カ所を訪問

2月20日～27日、アルバート・F・ブランデル国際第2副会長夫妻（アメリカ・ニューヨーク州メルビル）が来日し、22日横浜（横浜ロイヤルパークホテル）、24日福岡（ホテル日航福岡）、25日名古屋（写真／ウェスティン名古屋キャッスル）でセミナーが開催された。

ブランデル副会長は昨年のボストン国際大会で第2副会長に立候補し、対立候補との厳しい選挙の末に当選、就任した。元警官で、1975年にウエスト・ハンプシャー・ライオンズクラブ入会。メルビル・ライオンズクラブの準会員でもある。ユニセフへのライオンズ代表を10年間務め、9・11（アメリカ同時多発テロ）直後には、ニューヨークの世界貿易センター跡でのLCIFによる援助活動のコーディネーターとして尽力した。協会への貢献に対して、会員に与えられる最高の栄誉である親善大使賞を含む多数のアワードを受賞。また累進MJFでもある。麻酔医のモーリーン夫人もライオンズ会員。

25万人目のメルビン・ジョーンズ・フェロー

今年2月、LCIFに千ドルを献金した人に贈られるメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）が25万人に達した。25万人目のMJFになったのは、ライオン瀬野和博（愛媛県・今治ライオンズクラブ）。ライオン瀬野は2003年7月入会で、これまでにも20ドル献金でLCIFに協力している。所属する今治ライオンズクラブはモデルクラブとしてCSFⅡに積極的に取り組んでいる。7月に開催されるシカゴ国際大会で、記念すべき25万人目のMJFとして表彰される予定。

MJFの称号は1973年に創設。LCIFに対する献金全体の7割を占めて、財団を支える背骨のような存在となっている。86年にスタートした累進MJF（MJF献金2回以上）は世界で4万3400人に上る。国際大会ではMJFを顕彰するために、国際会長やLCIF理事長らが出席してMJF昼食会を開催しており、シカゴ国際大会では7月5日（木）に開かれる。登録料は45ドル。

NEWS CASSETTE

国際平和ポスター・コンテストの結果発表

「平和を祝して」のテーマで行われた、2006‐07年国際平和ポスター・コンテストの結果が発表された。最優秀賞はアメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルスのミンジー・イさん（13歳／スポンサー・クラブ：タルザナ・ライオンズクラブ）の作品。授賞式は3月9日にニューヨークの国連本部で開かれた国連ライオンズ・デーの中で行われ、記念の楯と賞金2500ドルが贈られた。イさんは6歳の時に家族と共に韓国から移住。夢は外科医になることで、秋には8年生（中学校）を卒業し早期入学プログラムで大学進学を予定している。「このポスターで世界中の国々が一つになってハーモニーを奏でる様子を表現しました。音楽が平和のメロディーを生み出すように、世界もまたそう出来るようになるべきだと思います」と作品に込めた願いを語っている。

（上）最優秀賞のミンジー・イさんの作品、（左上）入賞した齋藤夏実さん、（左下）同じく高本夏実さんの作品。日本の複合地区レベルでの最優秀作品8点は本誌2月号掲載

コンテストには世界70カ国で35万点の作品が出品され、クラブ、地区、複合地区、国際レベルの厳しい審査を経て24点が最終選考に残った。このうち1点が最優秀賞、残る23点が優秀賞を受賞。日本からは332複合地区の齋藤夏実さん（13歳／スポンサー・クラブ：青森ライオンズクラブ）と335複合地区の高本夏実さん（12歳／スポンサー・クラブ：京都府・綾部ライオンズクラブ）の2人が優秀賞を受賞した。入賞者には賞金500ドルと証書が授与される。

国際本部事務局の人事異動

今年1月、空席だった国際協会の事務総長に副事務総長兼会員サービス部部長のピーター・リンチ氏が、幹事に法律部部長のスコット・ドラムヘラー氏が就任した。また、1971年から36年にわたり勤務した太平洋アジア課のチエコ・コルビス課長が2月末日で退職した。後任は未定（2月末日現在）。太平洋アジア課には現在、日本語担当6人、韓国語、中国語担当各2人の職員がおり、翻訳やクラブ・サービス業務に当たっている。

薬物乱用防止全国大会のプログラム

3月1日に東京・丸の内の日本ライオンズ連絡事務所で開催された第8回八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議において、薬物乱用防止全国大会（伏見龍大会会長／髙橋祥治大会委員長／鈴木正二大会実行委員長）のプログラム概要が報告された。同大会は、薬物乱用防止教育認定講師制度の創設10周年を記念して開かれるもので、330～337複合地区と財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催する。会場は東京・千代田区の日本武道館、参加費5千円。

薬物乱用防止全国大会実行委員会（330・333複合地区）の報告によると、主なプログラムは国際連合薬物犯罪オフィスのアントニオ・マリア・コスタ事務局長による基調講演、ライオンズの薬物乱用防止教室実践者による報告とシンポジウム、共同宣言採択と「イエス・トゥ・ライフ・ドラッグフリー」コンサートで、コンサート出演者は松浦亜弥、モーニング娘。、谷村新司が予定されている。

シカゴ国際大会登録料の送金を国内で簡便に

第8回八複合地区議長連絡会議において、シカゴ国際大会登録料の送金が日本円の振込でも可能になることが報告された。これまではドル建て小切手か本部口座への送金、クレジット・カードによる決済の方法があったが、送金手続きをより簡便にしようと国際理事会の大会委員会に所属する山田實紘、谷野徹両国際理事が国際本部と折衝し決定したもの。国際協会の会費納入などと同様に5連式振込用紙を使用し、ライオンズクラブ国際協会日本事務所（東京・五反田）が管理する口座へ振り込む。大会登録用紙は従来通り国際本部大会部へ提出する。この方法は個人登録のみが対象で、団体登録には対応しない。

詳細は各複合地区の大会委員会へ問い合わせを。

グローバル・ウォーク支えた各国ライオンズの支援

乳がんの早期発見、治療の大切さを訴え徒歩で世界各国を巡る。そんなアメリカ人女性の挑戦を支えたライオンズの善意のリレーを、『ライオン』誌英語版4月号が報じている。

ポーリー・レトフスキーさんは叔母を乳がんで亡くしたのを機に、１９９９年、47歳の時にグローバル・ウォークに出発。アメリカからオセアニアへ渡り、アジア、ヨーロッパへ向かうルートで、5年間に18カ国、2万4千キロを歩いた。ライオンズとの出合いはオーストラリア。メルボルン近郊で道に迷った彼女に声を掛けたのが、地元のライオンズ会員だったことから、支援のリレーがスタートした。オーストラリア、マレーシア、タイ、イギリスなど10カ国の３４４クラブが宿泊場所や食料を提供したり、地元メディアに紹介したり、資金調達に協力するなど支援を展開した。マレーシアではライオンズ会員ら１００人が一緒に行進し、国会議員にも面会。その後、55歳から64歳の女性のマンモグラフィー検査に補助金を出すことが決まった。

「行く先々に父母や兄弟、伴侶がいるようだ」とレトフスキーさんは日記に記している。レトフスキーさんはオーストラリア滞在中に、マッケイ・ノース・ライオンズクラブの招請を受けて入会。現在はコロラド州ハイランド・ランチ・ライオンズクラブの会員である。

第8回ＬＣＩＦクルーズはアラスカへ

ＬＣＩＦ理事長夫妻をホストに客船の旅を楽しむＬＣＩＦクルーズ。第8回目となる今年のクルーズは２００７年8月20日～31日、豪華客船アイランド・プリンセス号で雄大なアラスカを巡る。クルーズ中は、船上パーティーや寄港地での地元ライオンズとの交流会など、船旅ならではの催しが企画される。参加にはクルーズ費用の他に客室1室につきＭＪＦ献金（千ドル）1件が条件。日本から出港地（バンクーバー）までの旅行や宿泊の手配、クルーズ参加申し込みは協和海外旅行株式会社（TEL：０３・３８１６・７９７１／FAX：０３・３８１６・７９７７／Ｅメール：kyowa@kyowa-kaigai.jp）で取り扱う。詳細の問い合わせは、同社の担当：野口正二郎（東京関東ライオンズクラブ）へ。

ユニセフ発表の『世界子供白書2007』

昨年12月発表の『ユニセフ世界子供白書2007』のテーマは「女性のエンパワーメント（能力の強化）」。白書は、子どもの養育者として主要な役割を果たす女性の権利がより広く認められ保護されることが、子どもの健全な発達や成長の促進につながると訴えている。ユニセフが目指す、極度の貧困と飢餓の撲滅や初等教育の完全普及など8項目の「ミレニアム開発目標」の達成にも、女性の立場向上が鍵になるとしている。ユニセフのアン・M・ベネマン事務局長は、「子どもの健康や幸福を真剣に考えるなら、今こそ私たちは行動を起こし、女性や女子が教育や政治参加の平等な機会を持ち、経済的に自立して、かつ暴力や差別から保護されるようにしなければなりません」と語っている。白書の日本語版は、日本ユニセフ協会のホームページ（www.unicef.or.jp）でダウンロード出来る。

新結成／クラブ名称変更

■新結成クラブ

北海道・札幌かもがわ▼結成順位／3639▼1月14日結成▼松原久子会長▼事務局／札幌市中央区北一条西2丁目　北海道経済センター　㈳北海道ビルヂング協会（〒060・0001）TEL011・231・1122▼スポンサー／331・A地区キャビネット

島根県・横田▼結成順位／3640▼1月19日結成▼絲原徳康会長▼事務局／仁多郡奥出雲町横田992・2　雲州そろばん伝統産業会館内（〒699・1832）TEL0854・52・0369▼スポンサー／仁多

長崎県・させぼ花みずき▼結成順位／3641▼2月16日結成▼川尻久美子会長▼事務局／佐世保市福石町21・4（〒857・0854）TEL0956・32・0899▼スポンサー／佐世保グリーン

■クラブ名称変更

大阪道頓堀→大阪道頓堀心斎橋

会議録

1月
2月

主な議題だけをまとめました

ライオン誌日本語版委員会

第6回委員会は1月12日、ライオン誌日本語版事務所で開催され、①1月号出来、②3月号以降台割（案）と主要記事予定、③ウェブサイト関連、④オンライン報告システムServannA、⑤特別負担金・送料請求、⑥その他ついて協議した。

②THEMEは4月号「LCIFスタディ・ツアー」、5月号「クラブ運営を考える」他。

複合地区国際大会委員長連絡会議

第4回会議は1月26日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、第I部第90回シカゴ国際大会、①代議員登録と大会登録、②ガバナー・エレクト・セミナー関係、③インターナショナル・パレード、④日本ライオンズ代議員会・夕食会、第II部、①確認事項について協議した。

第I部①代議員出席を促す手段として説明会実施を申し合わせ。また大会登録及び代議員登録数を把握するための共通フォーマット案を採用。

第I部④7月4日19～21時、ハイアット・リージェンシー・シカゴで開催。詳細は小委員会で検討。

ライオン誌日本語版委員会

第7回委員会は2月5日、ライオン誌日本語版事務所で開催され、①上半期決算報告、②2月号出来、③4月号以降台割（案）と主要記事予定、④ウェブサイト関連、⑤オンライン報告システムServannA、⑥ガバナー協議会議長連絡会議からの申し送り、⑦『ライオンズ必携』発行、⑧その他ついて協議した。

③6月号THEMEは「LCIFスタディ・ツアー」他。

日本ライオンズ連絡事務所管理委員会

第4回会議は2月6日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①2006・07年度上半期会計報告、②会計監査立ち会い、③業務報告について協議した。

①財政状況を確認し、署名及び捺印。

複合地区YE委員長連絡会議

第4回会議は2月9日、丸の内・パレスホテルで開催され、①夏期交換(A)派遣生、(B)来日生、②冬期交換の報告、③その他について協議した。

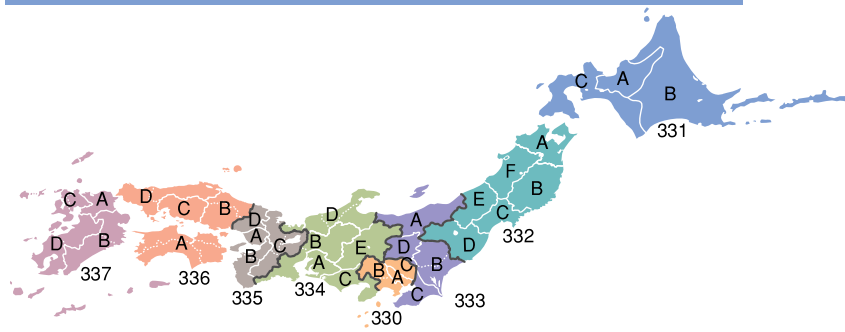
①最新派遣人数の確認、日程と料金についての説明他。

日本ライオンズクラブ クラブ数・会員数

世界のライオンズ

2006.12.31.国際協会集計	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
ライオンズ国または領域　200	45,105	1,295,583	-5,913

日本のライオンズ

2007.1.31.各キャビネット事務局集計		■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	207	0	5,528	29
330-B	神奈川・山梨・東京	193	2	5,746	52
330-C	埼玉	105	-1	2,941	22
330	計	505	1	14,215	103
331-A	北海道（道央）	77	0	2,821	-14
331-B	北海道（道北・道東）	97	-1	3,042	-21
331-C	北海道（道南）	62	0	2,138	-19
331	計	236	-1	8,001	-54
332-A	青森	69	0	2,141	21
332-B	岩手	57	0	1,850	33
332-C	宮城	82	0	1,779	-52
332-D	福島	79	0	2,287	5
332-E	山形	56	0	2,017	8
332-F	秋田	55	-1	1,569	-28
332	計	398	-1	11,643	-79
333-A	新潟	81	2	3,051	82
333-B	茨城・栃木	136	-1	4,297	-26
333-C	千葉	129	1	3,568	-15
333-D	群馬	56	0	2,164	-23
333	計	402	2	13,080	18
334-A	愛知	118	0	5,997	32
334-B	岐阜・三重	87	-1	4,130	29
334-C	静岡	83	0	3,575	29
334-D	富山・石川・福井	98	0	4,386	32
334-E	長野	55	0	2,411	42
334	計	441	-1	20,499	164
335-A	兵庫（東）	110	0	3,033	-17
335-B	大阪・和歌山	203	0	7,173	-35
335-C	滋賀・京都・奈良	123	0	4,742	0
335-D	兵庫（西）	69	-1	2,411	-25
335	計	505	-1	17,359	-77
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	-1	6,563	63
336-B	鳥取・岡山	102	0	3,869	-36
336-C	広島	106	0	4,196	70
336-D	島根・山口	110	1	3,852	1
336	計	473	0	18,480	98
337-A	福岡・長崎	120	1	5,083	53
337-B	大分・宮崎	89	-1	2,949	10
337-C	佐賀・長崎	84	0	3,322	-14
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	145	0	4,686	23
337	計	438	0	16,040	72
総計		3,398	-1	119,317	245
世界のライオンズの		7.5%		9.2%	

盲導犬繁殖センターの検診設備整備

愛知県・豊田東名、岐阜県・郡上八幡ライオンズクラブ

LCIF一般援助交付金：19,200ドル／事業完了日：2006年2月16日

盲導犬は視覚障害を持つ人にとって大切なパートナー。一緒に歩いて障害物を避けたり道を先導してくれるだけでなく、外へ出掛けたい、新しいことに挑戦したいといった前向きな気持ちにさせてくれたり、落ち込んでも立ち直るきっかけをくれたり、精神的な支えにもなっているという。

しかし盲導犬と暮らしたいと望むすべての人にそれが貸与される訳ではない。と言うよりも、盲導犬の数は希望者に対してまるで足りない。

盲導犬の提供頭数を増やすには

㈶中部盲導犬協会が活動エリアとしているのは、愛知、岐阜、三重、福井、石川、長野の中部6県。盲導犬の普及を目的に、国や自治体からの補助金と人々の善意の寄付を受けて運営されている。エリア内の盲導犬を必要とする人は313人。しかし貸与されているのはわずかに60頭。質の高い盲導犬をより多く誕生させるのは協会の長年の課題だった。

盲導犬が誕生するには、ブリーダーが血統の確かな犬同士から繁殖を行い、1歳になるまでボランティアのパピーウォーカーに預け、育ててもらう。その後、訓練センターで1年半にわたる厳しいトレーニングを受けるのだが、訓練過程を修了して盲導犬になれるのは45％程。この率をアップさせるには子犬の時点で盲導犬としての適性を見極め、より可能性が高い子犬に絞って育成することが重要だという。

訓練前の検査を充実

豊田東名ライオンズクラブはこの20年間に5千万円の資金援助とさまざまな活動を通じて盲導犬協会をサポートしてきた。そして、やはり協会支援を行っている郡上八幡ライオンズクラブと共同でLCIF交付金を申請、子犬の検査設備の充実による盲導犬の供給頭数アップに取り組むことにした。

名古屋市港区。2004年に中部盲導犬協会が設置した盲導犬繁殖センターがある。質の高い盲導犬の繁殖・研究を行う施設である。ここに最新の検診設備一式を贈呈した。犬にはしばしば遺伝性の眼病が見られ、盲導犬として多用されるレトリバーには特に頻発すると言われている。が、盲導犬にとっては目は特に重要。子犬のうちに眼底測定などの検査を行い適切な犬のみを訓練することで、これまでの年間12頭から4頭増の16頭を提供出来るようになる見込みだ。

これは費用面から見ても大きな貢献となる。盲導犬1頭の育成費は300万円。4頭多く盲導犬になることが出来れば、年間

1200万円が活かされることになる。運営費用の9割を寄付に頼る盲導犬協会にとっても、寄付する側にとっても福音である。

◆

2002年5月、身体障害者補助犬法が施行され、公共の施設や交通機関、またホテルやデパートなど多くの人々が出入りする場所に、盲導犬を含む補助犬を自由に同伴出来るようになった。この法律が真の威力を発揮するためには、より多くの盲導犬が社会に出て活躍することが望まれる。ライオンズに寄せられる期待も大きい。

インド洋大津波災害、2年後の大いなる前進

南アジアを津波が襲い壊滅的な災害をもたらしてから2年を経た。当初から世界中のライオンズが現地での再建を手伝い、物資を供給し、多額の献金をしてきた。

LCIFはこれまでに総額15万ドルを投じて救済活動を支援している。すべての献金は現場のニーズを知る南アジア地域のライオンズに直接交付された。この地域の会員は16万人。他の支援組織が被災地を去った今でも、LCIFと共に長期的な救済活動に尽力している。スリランカ、タイ、インドネシア、インドなどでは合計319戸の被災者のための住宅が現在建設中か、もしくは既に完成している。

ライオンズが多くの被災地で最も早く再建プロジェクトを成し遂げられたのは、もともと地域のリーダーとして政府との連携に欠くことの出来ない存在だったからだ。ライオンズ津波復興委員会委員長を務めるチャック・ウィジェナセン元国際理事は言う。

「津波がスリランカを襲った後、海岸線は何マイルにもわたり、がれきの山で埋め尽くされました。我が国の9800人ものライオンズ・メンバーが仕事関係や政府とのつながりを有効に活用し、再建活動に多大な貢献をしてきました。現在は津波で家を失った人々が経済的に自立していけるよう、専門的な復興プログラムを推し進めています」

LCIF、スリランカとベルギーのライオンズ、そして現地NGOとの協力で100戸の住宅を建築

LCIFのスタッフはこの2年の間に3回、スリランカの再建プロジェクトを視察した。ジミー・ロス国際会長は12月に同国を訪問し、現地ライオンズの尽力を称賛。「子どもたちに『新しいお家をありがとう』と言われてとても感動した」とも話した。

タイでは二つの島に二つのビレッジ、195戸の住居を建設。給水塔や児童養護施設、医療施設も設置した。漁業再興のための職業センターは今年後半にオープンする予定。学校建設も計画されている。ワラッパ・ウィサワスクホル310複合地区幹事は次のように話す。

「私は、ライオンズ・ビレッジ・プロジェクトを大変誇らしく思います。LCIFのおかげでこれほど大規模な事業が実現しました。プロジェクトのリーダーが地元ライオンズだったのも重要。津波の被害者のニーズを理解していて、人々に希望と新しい生活を与えることが出来ました」

津波は確かに去った。しかし人々の生活を向上させるためライオンズとLCIFの支援活動は今後も続く。

第1111回例会でCSF II資金獲得

佐賀県・鳥栖ライオンズクラブ

1月11日午前11時11分11秒に開会

　鳥栖ライオンズクラブ（永渕一郎会長／58人）は1960年10月10日、福岡県・久留米ライオンズクラブのスポンサーで結成された。以来、今年で47年目、例会の開催数は、この1月第1例会で1111回目を迎えることとなった。

　この1並びの数字に目を付けた永渕会長は、第1111回例会を記念例会とし、視力ファーストIIキャンペーン（CSF II）の事業資金獲得に生かすことを提案。クラブのLCIF委員会を中心に企画を開始した。

　同委員会では、どうせなら、徹底的に1にこだわろうと、1月第1例会を11日開催と決め、開会ゴングは午前11時11分11秒に鳴らすことにした。更にCSF IIのドネーションも1口1111円、最高11万1111円までとした。

　会場は出席レディー委員会の発案で、いつもの例会場とは違う場所を選定。自家農園での有機・無農薬栽培による野菜料理中心のレストラン「おおきな樹」で行うことにした。レストラン側も、経営者の父が同クラブ元会長（故人）だったこともあり、趣旨に賛同し、貸し切りで対応してくれた。

　例会には澁田繁晴CSF IIナショナル・コーディネーターや、山根由之337・C地区ガバナーを始めとする地区役員も出席。また、今年102歳になられる初代会長・中冨正義元地区ガバナーと、91歳になられる大石初太郎元会長の両チャーター・メンバーも加わり、クラブを挙げてキャンペーン協力に取り組んだ。

「今年度の会長テーマは3年後に迎える結成50周年を意識し、『半世紀に向けて、心ひとつに！』としました。その意味で、今回の第1111回例会は、ドネーション金額の多寡よりも、国際協会の最重点目標CSF IIへの協力に向けてクラブが結束することを最大の目標にしていました。結果的に、ウィ・サーブの精神の下、お二人のチャーター・メンバーを含めクラブが一丸となることが出来ました。来るべき50周年に向けて、いい状態になったと思います」

　と、永渕会長はうれしそうに話している。

　なお、この日のドネーションは最終的に40万1495円に上り、MJF献金5口と共に、永渕会長から山根地区ガバナーに目録を手渡した。

写真上：山根地区ガバナー（左）へCSF II献金の目録を手渡す永渕会長
写真右：新聞に掲載したCSF IIの全面広告を手にする102歳の中冨元地区ガバナー
写真下：この日は例会の食事も企画物とし、野菜を中心にしたヘルシーで低カロリーなメニューが好評だったという

SightFirst Update

失明を招く恐るべき病と戦うライオンズ

エチオピアでトラコーマを患っている数十万人のうちゲタチュー（4歳）、コンジット（48歳）の2人は、ライオンズのおかげで視力を取り戻した。エチオピアはさまざまな眼科ケアを必要としている国で、地元ライオンズ及びＬＣＩＦ視力ファースト・プログラムは、この要求に応えるため総括的なプログラムを展開した。

ライオンズは、トラコーマに対する戦いに非常に積極的で、ＬＣＩＦは現在進行中の事業への資金拠出やカーター・センターへの援助に合計1千万ドルを提供した。何万件もの白内障手術に加えて、執刀医、眼科看護士を対象とした研修、地方や十分な医療サービスを受けていない地域における眼科ケア・センターの強化など、2020年までにトラコーマを撲滅する長期計画を展開してきた。ライオンズは、病気と戦うだけではなく、予防の手助けも行っている。

トラコーマは最古の感染症の一つで、予防可能な失明の要因でもある。これは細菌性疾患で、目や手の接触、菌が付着したタオルなどにより簡単に伝染する。感染した患者はすぐに失明するわけではなく、病気は徐々に進行し、痛みを伴いながら、やがて視力を失っていく。子どもや女性の感染率が高く、進行するとまつ毛が内側に入り、まばたきをする度に角膜を傷つけ、その結果、失明してしまう。が、早期に発見出来れば、簡単で低価格な手術を行うことで、失明を予防することが出来る。

トラコーマは、エチオピアではいまだに風土病的に残っており、失明の要因（11％以上）となっている。ＬＣＩＦはエチオピア、スーダンのトラコーマ・プログラムに視力ファースト交付金を提供している。病気の広がりを止めるために、カーター・センターは、この事業の技術的要素に責任を持ち、ライオンズは教育的なプログラムの導入、洗顔や手洗いの回数を増やすといった衛生面の改善など、草の根的努力における極めて重要な役割を担う。

ライオンズはまた、治療薬の配布で貴重な戦力となっており、これまでに400万件の配布を行った。更にライオンズは、年間9万個の公衆トイレをエチオピアに建設。住民の予防意識を向上させるため、1700以上の村で定期的な研修も行っており、これには執刀医159人、地域リーダーや学校教師7200人も参加している。

顔を洗うエチオピア人女性。病気を減らし、予防する4ステップのうちの一つ

トラコーマによる視力障害者は800万人、活動性感染症にかかっている患者は8400万人いる。ＬＣＩＦは、2010年までにトラコーマ撲滅運動を現在の6カ国から15カ国に拡大し、対象患者を3千万人から4千万人に増やす計画である。

またライオンズは現在、まつ毛乱生症の手術待ちの患者がいる国々で年間6千件の手術を無料で行う支援をしているが、それを4万件に増やすことにより、この病気を根絶する計画を立てている。

トラコーマは視力ファースト・プログラムの一例にすぎないが、ＣＳＦⅡで集められた資金を通じて、ライオンズはこの病気を撲滅するための活動を加速させることが出来る。ＬＣＩＦでは、2020年までトラコーマと戦うために必要な資金は、世界中で集められた献金の4分の1から3分の1に等しいと推測しており、ライオンズはこの分野における国際的取り組みの第一線に位置することになる。

「七つの宝石」を贈った娘と いのちの尊さ伝える旅

戦後という数え方で、今年は62年。だが、これほどいのちが軽く扱われ、いのちを奪い、いのちを捨てる風潮が広くはびこるようになろうとは、誰が思っただろうか。

娘を不慮の事故で亡くした一人の父がいる。父は、娘の遺志を生かして、臓器移植を承諾した。今、父は、いのちが受け継がれているのを感じ、いのちの尊さを伝える旅を続けている。

その旅のあらましを伝えて、いのちの尊さを考えたい。　文／篠崎淳之介

長崎県波佐見町の波佐見ライオンズクラブは昨年10月、結成40周年を迎えた。記念式典では、市民にいのちの尊さを考えてもらおうと、「いのちのリレー　知ろう。話そう。考えよう」のテーマで市民公開講座を開いた。講師には臓器移植コーディネーターの西田裕子さんと、ドナー家族の田中和行さんが招かれた。

ドナーカードに残った娘の遺志

そのことが起こったのは、7年前の3月だった。その日の朝、東京都に住む田中さんは、激しい衝撃を受けた。ジョギング途中の次女理恵さんが、信号を無視した車にはねられた、という知らせだった。脳挫傷で、心肺停止の状態だった。助かる見込みは無い。突然のことに動転する両親に対し、長女がふと、思い出したように言った。

「理恵はドナーカードを持っているはずだ。あの子の意思を生かしてあげようよ」

臓器提供のドナーカードは、長女が勤務先の銀行から持ち帰って渡したものだった。提供出来る臓器のすべてに丸印がついていた。

両親はとまどった。家族で1時間程話し合った。初め、母は奇麗な身体に傷をつけることなど絶対出来ないと反対した。理恵さんがどんな気持ちでカードに記入したのか、今は確かめようも無い。けれども、遺志はカードの丸印としてはっきり示されている。

家族は提供される臓器は「いのちの宝石」だと考えた。理恵さんは、その宝石を多くの人たちに贈ろうと考えていたのだ。一つひとつ宝石が贈られ、贈られた人のいのちが輝くのだ。家族の気持ちは固まった。理恵さんの思いを生かしてやろう。

家族の固い思いを知った医師やコーディネーターは、移植の準備に入っていく。全国では5例目となる脳死での臓器提供だった。

2回の脳死判定を経て、摘出手術が終わった。理恵さんが病院に運ばれてから3日が経っていた。理恵さんの遺体は霊安室に安置され、お気に入りだった白いドレスに装われ、薄化粧を施された。理恵さんは生きているかのように美しかった。コーディネーターが、理恵さんの胸にカサブランカの花束を飾った。やがて医師や看護師ら150人を超える病院中の人々が焼香に訪れた。

「理恵は、こんなにも多くの人たちに感謝されることをしたのだ。理恵良かったな、良かったな」

焼香に並ぶ人々の列を見て、両親は涙が止まらなかった。

理恵さんの提供した臓器は、心臓、両方の肺臓、両方の腎臓、二つに分けた肝臓の七つの宝石だった。宝石は移植を待つ7人の人々に提供され、理恵さんの遺志を伝えて美しく輝いていった。

いのちの尊さ伝える旅が始まる

送別の式が済み、田中家に平穏の日々が帰って来た。理恵さんだけがいない幾月が過ぎた。ある時、父の和行さんは娘との貴重な体験を知り合いに漏らした。話に胸を打たれたその知人は、和行さんの話をもっと多くの人に聞いてもらおうと考えた。

やがて、学校や各種団体での和行さんの講演が始まっていく。理恵さんの臓器移植を通じて感じたいのちの尊さ、いのちはつながって、リレーされていくのだ、という和行さんの話は、多くの人の感動を呼んだ。㈳日本臓器移植ネットワーク主催のセミナーに招かれ、講演をしたのがきっかけで、北は北海道から、南は九州までの講演旅行が始まる。

理恵さんの臓器を移植された人たちのその後は、コーディネーターを通じて定期的に知らされた。彼らからの手紙や花束が届けられることもあった。和行さんはその度に、励まされているように感じたという。手紙にはこう記されていた。

「生きるという、何ものにも代えがたい尊い贈り物を、私の命と共に歩いてくださる希望を頂きました。大事にします。ありがとうございます」

昨年4月、和行さんは茨城県の水戸葵陵高校に招かれた。講演には水戸医療センター移植外科の湯沢賢治医師も招かれていた。初対面の湯沢医師が問い掛けた。

「田中さんは、もしかしてあの大学病院で臓器提供をなさった方ではあ

りませんか」

病院も臓器摘出した日も、湯沢医師の言った通りだった。湯沢医師は顔を真っ赤に紅潮させて告げた。

「実は、私がその時に頂いた腎臓を患者さんに移植させて頂いた者なんです」

不意に込み上げた。

「ああ、理恵が会わせてくれたのだ」

そう思うと、和行さんは涙が止まらなかった。湯沢医師は、患者も順調に回復していることを告げ、「素晴らしい贈り物を頂いて感謝の言葉もない」と、頭を下げた。二人は涙ににじんだ目で手を握り合った。

献血などから始めて いのちの尊さ伝えたい

和行さんの講演の旅が続いていたある日の夜、NHKの「クローズアップ現代」が、臓器移植の問題を取上げた。肺を移植された人が取材されていた。田中さん一家は、テレビを凝視していた。

その人は、死を待つばかりの重症だった。100歩と歩けない。その衰弱しきった体が、新しく肺を移植

された時から、見事に立ち直り、社会復帰も可能になった、という。画面に移植の日付が出た。一家は、思わず息をのんだ。理恵さんの摘出手術の日と同じだった。和行さんが叫んでいた。

「理恵だ。理恵の肺だ。理恵がいる！　生きている！」

家族が、理恵さんのいのち、宝石の一つに出会えた夜だった。

今、全国で臓器移植を希望している人は約1万2000人いる。それなのに、日本での臓器提供数は95例しかない。臓器提供の意思を記入したカードを持っている人は約400万人と推定されるが、カードの記載不備で使えないこともある。

和行さんは、多くの人にドナーカードを持ってもらいたいと話し、いつも講演をこう締めくくる。

「皆さん、いのちを大事にしましょう。そしてまた、相手のいのちも大切にしましょう。そして感謝の気持ちを持ちましょう」

日本で、脳死による初めての臓器提供があった時、その家族は「次につなげてください」と言ったという。1回目の提供の勇気が、2回目につながった。和行さんは思う。「私たちも、次の人のために提供しようと思いました。娘の後も、提供者が続いて、今は40数人の方が提供しています」

こんな和行さんの「いのちの講演」は、多くの子どもたちの感想や決意を生み出していく。

「(略)今回の講演は、私にとって命について考えるきっかけとなりました。このことを心に留め、献血などの小さなことから始めていけたらと思っています」(中学生・杉本紗希・東京都文京区・『毎日新聞』みんなの広場)

「(略)私はその話を聞いてまず、娘の理恵さんはドナー登録をしていらっしゃった、というそれだけで心優しく人の痛みが分かる素晴らしい人だなぁ、と思いました。(略)私は将来、理恵さんのような人の苦しみが分かる人になりたいです。たった一つのかけがいのない命を、これからも大切にしていきたいです。私が命を大切にしようと、こんなにも真剣に考えることが出来たのは、理恵さんのおかげです」(中学生・岡嶋貴穂・東京都新宿区・『東京新聞』わかものの声)

私たちは尊いいのちの連鎖の中で生かされている。いのちの尊さを伝える和行さんの旅は、多くの波紋を広げながら、今年も続けられていく。

取材後記

井村一男（ライオン誌日本語版委員／長崎県・諫早）

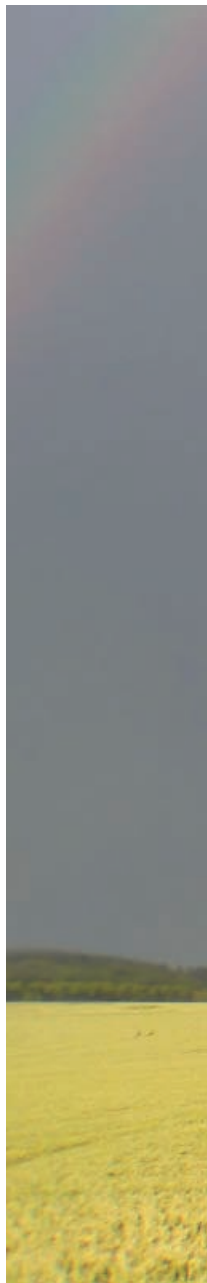
冒頭で紹介した波佐見ライオンズクラブの記念式典に、私も出席していた。過去にいくつか、これに類する講話を耳にしたことがあった。が、田中氏の話を聞いて、目から鱗とはこのことかと思った。彼のナレーション、雰囲気、そして話の内容……。衝撃的だった。

早速、本誌に採り上げたい、と委員会と編集スタッフと打ち合わせをした。ただ、講演をそのまま文章にしても、平面的になってしまい、空気までは伝えきれないのではないか。そう考えた我々は、インタビューや対談も含め、いろいろな手法を検討していた。

そんな中、昨年暮れから新年にかけ、いじめによる子どもの自殺や凄惨なバラバラ殺人が相次いで起こった。いのちを軽んじる事件の続発に、改めてその意義を問い直す必要があると考えた。そこで、お嬢さんの尊い行いと、その遺志を伝えようとする田中氏の行動を、一つのストーリーとして組み立てさせて頂くことにした。

この記事を読んで、いのちの尊さを感じて頂きたい。また、1人でも2人でも、臓器提供者が増えることを期待したい。

SCENE

今年も熱いぞ「越中万葉かるた大会」。コンマ数秒の激闘が、郷土を愛する心を育む。

富山県・高岡古城ライオンズクラブ

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

富山県高岡市で、ユニークなかるた大会が開催されているというので訪ねてきた。

1月21日（日）午前8時。会場の市立志貴野中学校体育館は、既に満員状態。市内12の小中学校から693人の子どもたちが集まり、これから繰り広げられる熱戦をまだかまだかと待ち構えている。30分後に開会式を控えたこの大会は、高岡古城ライオンズクラブ（西森祐真会長／57人）が主催する「越中万葉かるた大会」。今回で28回目を数えるクラブ最大のアクティビティである。かるたを通して子どもに高岡の歴史や風物詩を知ってもらい、郷土を愛する心を育んでほしいと願って、1979年にオリジナルかるたを製作したのが始まりだ。『万葉集』20巻の中から、1300年前、高岡に逗留していた際に大伴家持が詠んだと思われる越中にちなんだ400首を選び、更にその中から子どもにも親しめそうな100首を厳選した。出来上がったかるたはクラブのメンバーが市内の小中学校などに寄贈し、普及に努めた。努力の甲斐あって、翌年に

第1回大会が開催され現在に至っている。つまり、かるたを作ったのも大会を始めたのもライオンズという、まさに手作りの中の手作りアクティビティである。これまでの参加者は何と1万2千人にも及び、親子二代で大会に参加したという人もいる程。また「不登校の子どもたちを集めて学校で万葉かるたを始めたら、よほど楽しかったのか、かるたやりたさに学校に来るようになった」なんていうエピソードもあり、かるたの虜になった人は少なくはない。

ルールは明快。100枚あるうち50枚の札を4人で取り合う。対戦相手を変えてこれを4回行い、取った札の合計が最も多い人が勝ち。3・4年生、5年生、6年生、小学校団体、中学校に分かれ、それぞれ競い合う。百人一首と同様で取り札には下の句だけ書かれていて、詠み人が上の句を詠み上げるやいなや、体育館の床が一斉に叩かれ鳴り響く。皆、恐ろしく手が早い。それもそのはず、12月に入ると大会に向けて各学校で猛練習が行われているからだ。3年生から継続して大会に参加する子どもも多く、年々レベルが高くなっている。

こころのチキンスープ●ライオンズ編

リッチランドの壺

構成／青山研

「真の友達は不幸に出会った時に初めて分かる」
――イソップ――

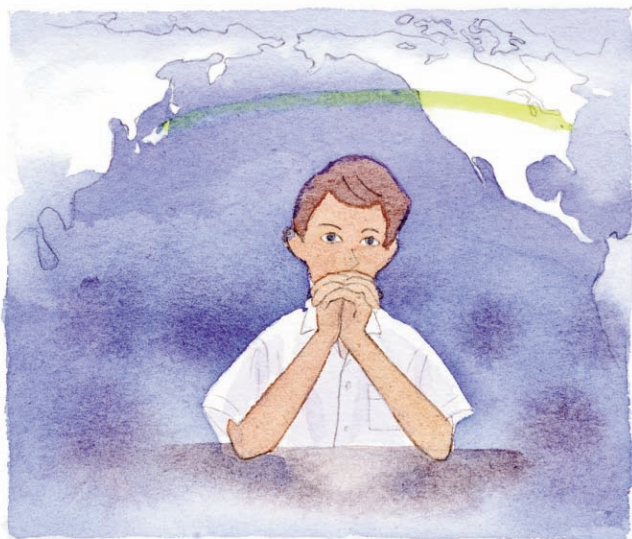
振り返れば50年、青森市のライオン市川仁也は、苦しかった若い日に出会った大きな友愛の輪を思い出さずにはいられません。

市川青年は小学校3年の時に父を亡くしました。3人の子を抱えて、母の懸命の日が始まります。翌年、青森市は空襲で焼け野原となり、母子家庭にとって戦後の苦難の日々が重なっていきました。食べるのがやっとの毎日でしたが、高校生活は新聞配達をしながら続けました。でも、苦しくとも希望がありました。英語に興味を持ち、カナダ人の宣教師夫妻がやっていたバイブル・クラスにも通いました。それが縁で、青森バプテスト教会に通うようにもなりました。思わぬ人生の壁が立ちはだかったのは、高校を卒業する頃のことでした。

大学進学は、経済的に無理でした。就職も、大きな会社や銀行などは、母子家庭の市川青年にとって縁のない職場でした。職は自分で探すしかありません。世の中は、折悪しく政府の引き締め政策で不景気のまっただ中です。左官職の手伝い、書店の配達アルバイト、日本赤十字社のアルバイトなど、少しでも条件の良い職場を探す毎日が続きました。いったい、こんな日がいつまで続くのか。でも、市川青年はあきらめませんでした。ある日、三沢の米軍基地で英文タイプと通訳の要員を募集する求人広告を目にします。暗夜に光明を見た思いでした。英語は得意でしたから、働きながら養成所に通って英文タイプを身につけ、採用試験に臨みました。タイプの実技が通れば合格です。落とし穴は突然現れました。実技を試される目の前の米軍のタイプライターが新式のものだったのです。練習に使っていたのは旧式のものでしたから、扱いが分かりません。悔しさが胸底から突き上げました。

次から次へ、悪いことばかりが重なっていきます。その頃でした。どうにも左目の様子がおかしいのです。時々、物の形がぼやけて見えたりするのです。近くの眼科医を訪ねました。

「網膜はく離です。このままにしておくと失明し

イラスト／吉田悦子

ますよ！」

でも、大きな病院で手術すればまだ間に合う。入院加療は5万円程だろう、ということでした。56年当時の青森では、大卒初任給がほぼ1万円、5万円はとても準備出来るお金ではありません。

このまま、失明の日を待つのか。街はねぶた祭りの準備にときめき始める頃なのに、市川青年は絶望的な気持ちでした。他に当てもなく、教会の豊原敏郎牧師に相談しました。すがる思いでした。20歳になった6月のことでした。

牧師は費用のことは考えずに、すぐ入院するように勧め、市川青年を県立中央病院に入院させました。それからです。この青年のために、大きな愛の歯車が回り出します。

豊原牧師は、同じ教会のハルバーソン宣教師に事の次第を告げて相談しました。ハルバーソン宣教師は、「日本の1人の青年を失明の危機から救いたい」とアメリカ・ワシントン州の母に手紙を書きます。宣教師の母は、かつて、子息と共に青森に住み、地元の人から温かくもてなされたことを忘れていませんでした。そのお母さんが、息子からの航空便を弟のハックルベリー氏に見せて相談します。ハックルベリー氏は地元リッチランド・ライオンズクラブの会員でした。理事会は、日本の青年の危機を救おうと即決です。青森に電報が打たれ、会員が拠出した150ドルが日本で初めて出来た東京ライオンズクラブに送金されます。突然のことに東京ライオンズクラブは驚きましたが、青森の地元紙東奥日報社に連絡し、独自に医療費を送りました。リッチランドからの寄金は別に積み立てて「リッチランドの壷」として、目の奉仕活動に使うことになりました。人から人へ、太平洋を挟んだ心温かな人々の見事な連携プレイでした。

8月16日、市川青年は手術を受け、無事光を取り戻すことが出来ました。町はもう爽やかな秋の気配を漂わせ、青年の再出発を祝うかのようでした。望みは持ち続ければ、かなうのです。その後、市川青年は、教会につながる人の縁で、日本通運に就職が決まります。それだけではありません。リッチランドが結んだ縁で、青森にもライオンズクラブが出来、市川青年もやがてそのクラブのメンバーに加わることになります。

はるばる遠い道でした。険しい道でした。でも、青年はあきらめなかったのです。その心がたくさんの人々の胸に響き、今も「リッチランドの壷」として残っているのです。

3

4

5

れ劣らぬ熱弁が披露された。

栃木県・宇都宮南（333-B）写真3

1月23日、陸上自衛隊宇都宮駐屯地にて献血運動を実施した。当日はクラブ3役が受付を担当し、9時半から6時間実施して、40人から献血の協力を得ることが出来た。このアクティビティは長年にわたる継続事業で、現在は年4回行っている。

兵庫県・三木東（335-D）写真4

11月5日、メンバー13人がパンジーやチューリップの苗や球根をプランターに植え、仕上がった140個のプランターを市内養護施老人ホーム「三木さつき園」など７カ所の高齢者施設へ贈った。お年寄りたちは「これから世話をする楽しみが出来た」と喜んでいた。

愛媛県・今治東（336-A）

12月17日、愛媛県赤十字血液センターから献血車１台に来て頂き、今治サティにて献血運動を実施した。当日は天候に恵まれず、曇り空、強風、時々みぞれとあいにくだったが、寒さにも負けず多くのメンバーの協力があり、献血希望者は100人以上にもなり、最終的に67人から採血が出来た。

岡山県・高梁（336-B）

12月5日、備中高梁駅から高梁川までの駅前通り、伯備線を跨いでいる東西連絡車道とその周辺の清掃活動を行った。参加者はメンバーの他、長寿会や婦人会の方々など総勢40人。１年間溜まっていた道路のゴミ拾いや手すりの清掃、高所作業車による街路灯のすす払いを行った。

広島県・因島（336-C）

10月7日、フラワーセンターに続く道路両側のライオンズ並木の清掃を行った。メンバーは鎌や熊手を持ち寄り集合。雑草の除去作業に汗を流した。近所から草刈り機の提供もあり、並木道はまたたく間に奇麗になった。

宮崎センチュリー（337-B）写真5

1月14日、青少年育成事業の一環として、宮崎市ホテル浜荘にて「第5回新春たまゆらの湯子ども将棋大会」を開催した。参加者は小学生50人の他、家族や関係者45人、計およそ100人が参加する大きなイベントとなった。

鹿児島県・志布志（337-D）

12月3日、「第5回志布志ライオンズクラブ旗小学生バレーボール大会」を志布志運動公園体育館で開催した。近隣のスポーツ少年団が参加し、熱戦を繰り広げた。また併せて市献血推進協議会と共に献血キャンペーンも実施し、バレーボールチームの保護者など35人が協力した。

■投稿要領→62ﾍﾟ
※サバンナ(オンライン報告システム)からも文字原稿を投稿頂けます。サバンナで投稿された原稿は、『ライオン』誌ウェブマガジンの「クラブ・リポート」でご紹介していますので、こちらもご覧ください

サービス・アクティビティ

神奈川県・逗子葉山（330-B）

11月5日、児童養護施設「幸保愛児園」の子どもたちを招待し、お芋収穫祭を開催した。当日はメンバーが1日里親となり、芋掘りの他、ハイキングやバーベキュー、ゲームなどをし、笑顔で1日を楽しんだ。

北海道・当麻（331-B）

12月21日、当麻町教育委員会へ児童向け図書103冊を贈呈した。これは23年続く継続事業となっており、現在までに贈呈した冊数はおよそ3000冊にも上る。今後も子どもたちのために続けていく予定。

北海道・羽幌（331-B）

12月8日、特殊学級ミニ合同学習会を羽幌小学校で実施し、児童らと餅つきを行った。用意した二つの臼を並べ、メンバーがこね、エプロン姿の子どもたちが顔を真っ赤にしながら「ペッタン、ペッタン」と10㌔の餅をつき上げた。あんころ餅、きな粉餅、雑煮にして、みんなでつきたての味をかみしめた。

山形県・大石田（332-E）

1月29日と31日の2日間、クロスカルチャープラザにて、寒中ゲートボール大会を開催した。選手は60代から90代で、集落ごとの22チーム約230人が参加した。ベテランから初心者までボールの行方に一喜一憂し、歓声やため息など入り混じり大変盛り上がった。

秋田県・由利（332-F）写真❶

11月6日、環境保全の一環として地元のゆりロードにて、積雪や冷気から保護することを目的に道路脇の樹木の冬囲い作業を行った。持参した木材と縄で丁寧に樹木を囲い、雪の重みで倒壊しないよう木槌でしっかりと固定した。

新潟県・十日町（333-A）

2月2日、小出養護学校ふれあいの丘分校を慰問した。角田幹事と佐藤会計が赤鬼と青鬼に扮し、生徒らと豆まきやおしくらまんじゅうをして楽しんだ。この節分の豆まきボランティアは毎年の継続事業となっている。

茨城県・下館シニア（333-B）写真❷

11月25日、悪天続きで発育が遅れ、チャリティーバザーに間に合わず販売出来なかった農産物を収穫した。当日は雨続きで畑が湿っており、作業に手間取ったが、立派に成長したサトイモを参加したメンバーで協力し掘り起こした。このサトイモはメンバーらに販売し、売上金はクラブの収益金として他の事業に役立てる予定。

茨城県・常陸太田（333-B）

11月15日、「第23回中学生英語暗唱大会」を後援した。会場では生徒らが中心となって司会や受付を行い、審査は中学校の英語科教員と英語補助教員（ALT）にお願いした。近隣の18中学校から51人の中学生が参加し、日頃の成果を遺憾なく発揮、いず

CLUB REPORT クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は62ページ、または『ライオン』誌ウェブ・マガジンをご覧ください。

鹿児島県・宮之城ライオンズクラブ

防犯パトロールを実施

イラスト／篠田和夫

宮之城ライオンズクラブ（25人）は11月17日、防犯パトロール講習会を実施し、メンバーが防犯のイロハを学習した。

講習会はさつま警察署の協力で同署会議室で行われた。全国的に児童・生徒が犯罪に巻き込まれる事例が増加している中で、クラブでは当地域の児童・生徒を犯罪から守ることを重点課題の一つとして取り組むことにした。講習会では、防犯組織の必要性や街頭指導の留意点、犯罪が発生した時など防犯パトロールの基本事項の指導を受けた。

講習後は出発式に移り、防犯ステッカーの貸与を受け、パトロールへ向かった。

パトロールは常時活動とし、各メンバーはパトロール集計票に記録して、月初めに事務局へ報告するようになっている。講習後のパトロール実施は、メンバーの犯罪防止の決意を新たにした。（会長／砂田信義）

連絡先→0996・53・0812

（編）犯罪が多様化し、広域化している中で治安の維持には警察だけでなく地域の協力も不可欠ですね。

山口県・宇部サルビア・ライオンズクラブ

三遊亭小遊三チャリティー落語会

宇部サルビア・ライオンズクラブ（大川内博行会長／29人）は11月15日、宇部市渡辺翁記念会館で「第16回チャリティー落語会」を主催した。テレビ番組「笑点」でおなじみの三遊亭小遊三さんを始め、4人の落語家に出演して頂いた。

このアクティビティは福祉事業の一環として、第1回から小遊三さんを迎えて実施。収益金は毎年、宇部小野田肢体不自由児（者）父母の会、宇部小野田精神保健家族会などに寄付している。

当初、規模の小さな会場で準備を進めていたが、あまりにチケットの売り上げが好調なため、急きょ収容人数の多い会場へ変更した。長年続けていることもあり、市民も毎回楽しみにしてくれ、地域に根付いたアクティビティとなっている。（幹事／平中孝信）

連絡先→0836・35・6877

（編）この落語会を楽しみにしている人は年々増え、今回は会場の変更にまで発展しました。まさに「継続は力なり」ですね。

神奈川県・横浜磯子ライオンズクラブ

身体障害者地区活動ホーム祭り

10月22日、横浜磯子ライオンズクラブ（34人）は横浜市磯子区身体障害者地区活動ホームで、活動ホーム祭りを開催した。この祭りは平成6年から13年続く継続事業。会場ではメンバーによる焼きそば、ポップコーン、バーベキューなどを提供し、またケーキ作りの実演を行い、皆さんに食べて頂いた。また、ヨーヨー釣りや多くの賞品を選べるビンゴゲームなどで遊び、参加者は大いに盛り上がった。

当日は、身体障害者50人の他、同伴者や協力者70人、メンバー25人の計145人が参加。13回目ともなれば身体障害者の皆さんとも顔なじみ。家族同様の親しみも湧いてきて、楽しく、面白い、和気あいあいとした祭りになった。

心のケアに役立てたかなと思うと同時に、メンバーは参加者たちの楽しそうな笑顔が何よりの励みになっている。

（会長／岸下武雄）

連絡先↓045・231・0591

（編）きっとメンバーだけではなく、障害者の方たちも毎年同じ顔ぶれに会えるのを楽しみしていることでしょう。

北海道・川湯ライオンズクラブ

スポーツで子育てを

川湯ライオンズクラブ（宮崎鉄雄会長／15人）は12月2日、町社会老人福祉センターで「生涯学習講演会」を開催した。北海道新聞編集委員の黒田伸さんが「野球が北海道を変えた！」と題して講演を行った。

当クラブは毎年、川湯地域で講演会を開催しているが、もっと多くの人に聞いてもらいたいと、今回は町生涯学習推進本部と共催で実施した。

講演会には、野球少年団の子どもたちや弟子屈高校野球部の選手、一般町民も含め約100人が参加し、講演した黒田さんは、これまでの取材を通して、高校野球で話題となった駒大苫小牧高校野球部や、今シーズン日本一となった日本ハムファイターズのエピソードなどを紹介。

親たちには、「スポーツは子どもを変える力があるので、スポーツを通した子育てをして欲しい」とし、また子どもたちには、「どんなスポーツでも親の協力がないと出来ないので、感謝の気持ちを忘れないで、がんばってほしい」と呼び掛けた。会場は真剣に聞き入り、大いに盛り上がり大成功となった。

（幹事／小泉裕）

連絡先↓015・483・2611

（編）昨今の北海道は高校野球やプロ野球で盛り上がっています。野球に詳しくない人も楽しめる講演会だったことでしょう。

京都シニア・ライオンズクラブ

DVの理解を深める

京都シニア・ライオンズクラブ（山田喜之会長／22人）は発足してまだ３年目の新しいクラブ。今まで取り組んできた青少年育成だけでなく、更に視野を広げた活動はないものかと検討している中で、今年度から新たな試みとして、ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）に対する理解を深めようということになった。ＤＶ法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）の取り組みが少しずつ定着しているにもかかわらず、メンバーには十分な認識がされていないことから企画した。

まず７月20日の例会に、京都市内にある母子生活支援施設「野菊荘」の芹沢出施設長を招き、現状や課題について話をお聞きした。その後、私たちにどのような支援が出来るのかが話題になったため、11月16日、改めて「野菊荘」の施設見学を行い、わずかながら施設運営に役立ててもらうための支援をさせて頂いた。施設の性格上、会員にも所在地などを明らかにする案内は行わず、ＪＲ二条駅前に集合し、現地へ向かった。

施設では、複雑な家族環境から、特に子どもたちの心のケアが必要なことを知った。また、豊かな人間関係を構築する配慮や情緒の安定のために、骨身を惜しまず取り組んでいる施設職員の方々の様子を目の当たりにして頭が下がる思いがし、別の視点から青少年育成の課題も学習することが出来た。

（第二副会長／大田垣義夫）

連絡先↓075・706・6008

（編）最近はＤＶの被害だけでなく、未婚母子や夫の行方不明、金銭トラブルなど、さまざまな事情で施設を利用されるそうです。

北海道・苫小牧白鳥ライオンズクラブ

中学生アイスホッケー大会

苫小牧白鳥ライオンズクラブ（佐藤英美会長／60人）は11月11日から15日まで、苫小牧アイスホッケー連盟、苫小牧市中学校体育連盟と共催で、「第27回苫小牧白鳥ライオンズクラブ杯争奪中学校アイスホッケー大会」を開催した。

大会は５日間の日程で三つの会場に分かれ、８チームがトーナメント形式で競い合った。会場は大勢の参加選手の他、応援する家族や関係者でいっぱいとなり、氷上の戦いとはいえ、連日熱戦を繰り広げた。

今回で27回目を迎えた継続事業であるが、毎年たくさんの参加があり、今後も期待に応え、継続していきたい。

（ＰＲ委員長／大西政春）

連絡先↓0144・33・2525

（編）決勝は、０・２から連続４点を決める大逆転劇が繰り広げられたそうです。会場はさぞや盛り上がったことでしょう。

宮城県・仙台キャッスル・ライオンズクラブ

花壇づくりを実施

仙台キャッスル・ライオンズクラブ（後藤恵子会長／13人）は12月7日、花壇の手入れと植栽を行った。

2004年に女性クラブとして結成した時から、仙台市の公園の花壇を借りて花壇づくりをし、季節ごとに美しい花を咲かせ、公園を利用する人々の目を楽しませてきた。

2006年最後の手入れは、みんなでクラブ特製ジャンパーを着て、寒い中で行った。一年草の花と雑草を抜き、イチョウの落ち葉を拾って、チューリップの球根とすみれの一種であるビオラを植えた。

もう少しして暖かくなってきたら花たちは色とりどりの美しい花を咲かせ春の訪れを告げてくれることだろう。

（幹事／渡邉晴子）

連絡先→022・278・1744

（編）なんとも女性クラブらしい素敵なアクティビティですね。きっと四季を通じてたくさんの方が花壇を楽しみにしているのでしょう。

富山神通ライオンズクラブ

皆で咲かそう奉仕の花

富山神通ライオンズクラブ（大久保勝弘会長／94人）は本年度スローガン「神通の地域とともに奉仕の和」の実践として、アルミ缶などの回収活動に取り組んでいる。

日本では町のいたる所に商店や自動販売機があり、自由に缶飲料が購入出来る。その反面、ゴミの発生による公害など、深刻な環境問題を引き起こしている。地域にあふれる空き缶の処理は重要な課題の一つであり、空き缶をリサイクルし、環境を守り、この問題を解決しながら事業を進めている。

手始めに8月4日、1回目の空き缶選別を実施。メンバーが持参した空き缶と収集した空き缶で、中型トラックは満載になった。その後も定期的に事業を進め計5回の回収作業を行った。そして1月には、1トン以上のアルミ缶を収集することが出来た。

地域の方々とメンバーで空き缶一つひとつを集めた結晶が「人・街・文化」に触れ合って「奉仕の花」となって咲き誇ってくれることを願っている。この小さなともしびが大きくなることを信じつつ、今後もこの事業に取り組んでいくつもりだ。

（社会奉仕委員長／森信治）

連絡先→076・441・8333

（編）集めたアルミ缶はメンバーが収集分別し廃棄物業者へ売却。その収益で車いすを購入して障害者施設や公共施設など車いすを必要とする施設へ寄付する計画で、現在9台の車いすを購入し、福祉施設へ寄贈したそうです。

福岡県・北九州紫水ライオンズクラブ

2分の1成人祭を実施

11月30日、富野市民センターで、市立富野小学校4年生46人を対象に「2分の1成人祭」が開催され、北九州紫水ライオンズクラブ（幸野恒育会長／40人）では青少年指導育成委員会を中心に協賛した。2分の1成人祭は今年で2回目となり、市内はもちろん全国的にも珍しい。

最近、20歳の成人式が荒れたり、形骸化して良くない雰囲気が囁かれている。そこで、10歳の子どもたちに大人になった時の夢や希望、心構えなどについて考えてもらい、20歳の自分にあてた手紙を書き、タイムカプセルに入れてみては、とのアイデアが出された。それを自分たちの成人式前日に開封し、心を新たにするという試みである。

当日は地域の父兄や学校関係者、報道機関など約200人の参加者が見守る中、タイムカプセルが封印された。また、お祝いの紅白餅約200個を児童らと共につき、児童と保護者ら参加者に配布した。

（PR編集委員長／山路哲男）

連絡先↓093-522-1251

（編）成人式の前日に懐かしい思い出に出会える機会に恵まれ、10年後は2重の楽しみが待っていますね。

宮崎県・清武半九ライオンズクラブ

ふれあい健康マラソン

清武半九ライオンズクラブ（18人）は11月26日、視覚障害者が健常者の伴走で走る「ふれあい健康マラソン」を開催した。この大会は337-B地区第3リジョン第5ゾーン4クラブ（宮崎中央、宮崎ひむか、宮崎マリーン、清武半九）の合同アクティビティ。

15年程前、宮崎で開催された国際青島太平洋マラソンに視覚障害者の部が設けられた時から、宮崎伴走者協会などの協力を得て続いている。

当日は小雨が降るあいにくの天気となったが、参加者たちは自分の体力に合わせた距離のマラソンやウォーキングの部に分かれてスタートした。マラソンの部では視覚障害者と健常者が輪になったロープを持ち、健常者のリードで走った。レースは事前に自己申告したタイムにどれだけ近い時間で走れるかを競った。参加した視覚障害者は「うまくリードしてもらって楽しく走れました」と笑顔をみせていた。クラブではまた競技終了後に、豚汁とおにぎりの昼食を提供したが、これも恒例のアクティビティとなっている。来年もたくさんの笑顔が見られるように継続していきたい。（会長／若友慶二）

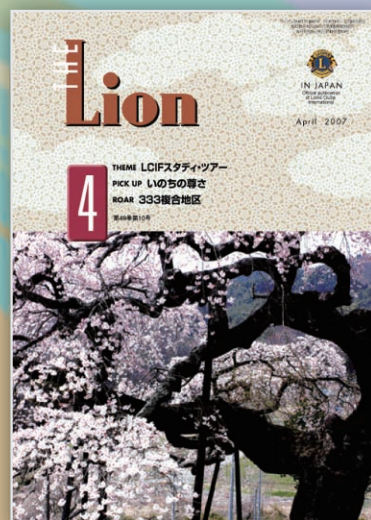
連絡先↓090-5745-0267

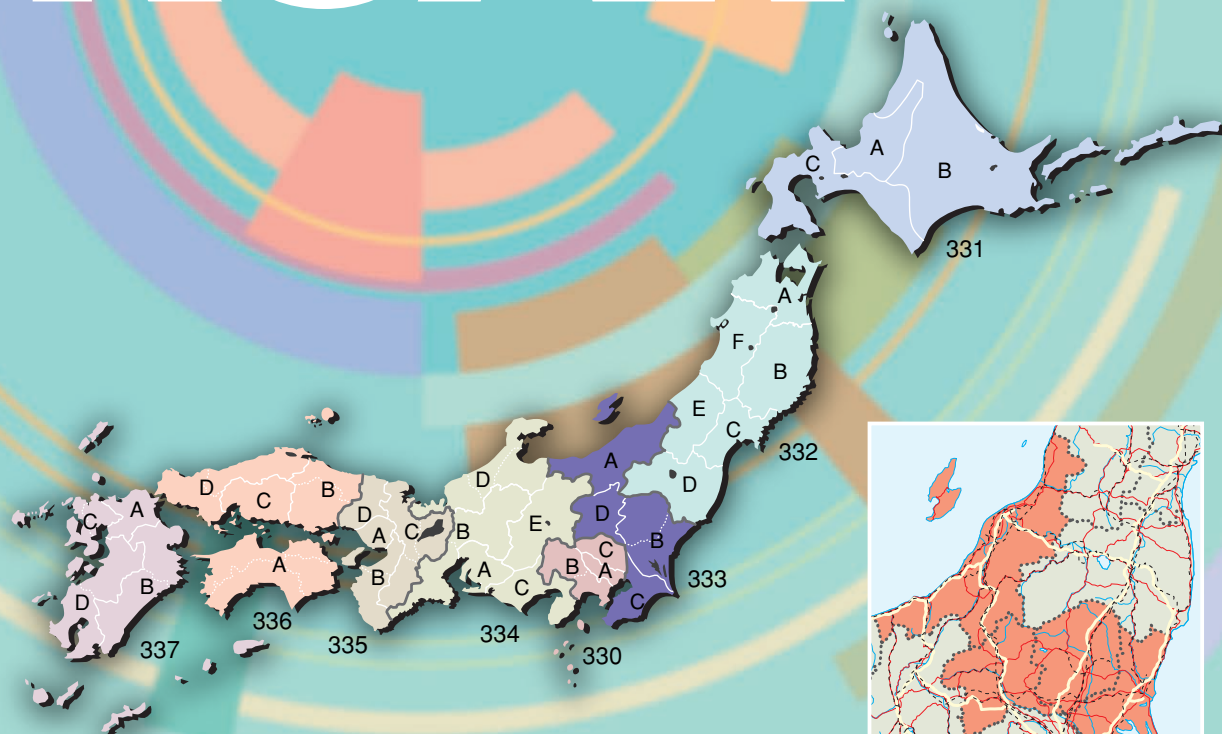
（編）大会の模様は当日夕刻にテレビ放映、新聞3社に写真入りで掲載されました。

まるごと 333複合地区

Topics

1. 新潟県三条中央
2. 茨城県水海道
3. 千葉県松戸南
4. 千葉県富津
5. 群馬県高崎三山

ふるさと探訪 茨城県北茨城

●今月の表紙
茨城県大子町「外大野の枝垂れ桜」

トピックス1 Topics

小学校で読み聞かせ　読み手の心も豊かに

新潟県・三条中央ライオンズクラブ

■情報提供／土田美千代（社会福祉委員長）

朗読に聞き入る小学生たち

新潟県のほぼ中央に位置する三条市。300年の伝統を誇る金物の町として知られる。同市の三条中央ライオンズクラブ（加藤敏敦会長／80人）では、小学校に出向いて、児童たちに絵本の読み聞かせをしている。「本は心の栄養。子どもたちに本を読んでもらい、心豊かに育ってほしい」と、昨年9月から始めた。月に1回の活動だが、児童たちはメンバーの朗読に夢中で、メンバーたちも児童との触れ合いを楽しんでいる。

6回目の読み聞きかせになる2月16日には、メンバー11人が市立上林小学校を訪問。朝一番で低学年の3クラスに数人ずつ入り、『スイミー』などの絵本を10分あまりかけて読んだ。読み聞かせ初挑戦のメンバーもいたが、事前に何度も練習をしていて、児童たちの前では、はっきりとした声で内容も分かりやすく読んでいた。コツは、子どもの想像力を邪魔しないよう、あまり感情を込めず淡々と読むこと。

子どもたちは、ほおづえをついたり、腕組みをしたり、思い思いの姿勢で物語の世界に入り込んでいた。「すごい集中力で聞いていてびっくり」と先生たち。

初挑戦のライオン五十島浩行は「子どもたちの真剣なまなざしに、心が触れ合うのを感じた」と話していた。

この事業の発案者で、子育てサークルで読み聞かせを続けてきた土田美千代・社会福祉委員長は、「読み聞かせは、子どもの心はもちろん、読み手の心も豊かにするんです」と語る。

同クラブでは、今年度いっぱい読み聞かせを続け、子どもとメンバーの心の交流を深めたい考えだ。

読み聞かせをするライオンズ

Topics トピックス2

アドリブの英会話コンテスト　中学生ら“真の英語力”競う

茨城県・水海道ライオンズクラブ

■取材／編集部

茨城県西南部、首都50キロ圏にあって都市化の進む常総市（旧水海道市）。水海道ライオンズクラブ（金山桂一会長／42人）は2月18日、市内のホールで、英語でのコミュニケーション能力を高める「第1回ライオンズクラブ英語インタラクティブフォーラム」を開いた。市内の5中学校から1、2年生60人が参加。身近なテーマを英語で話し合い、実践的な英語力を競った。

審査員や大勢の参加者の前で英会話をする

競技は、まず3人一組のグループになり、クジで「私の夢」「私の友達」などの話すテーマを決め、4分間話し合う。その様子をネイティブの英語補助教員（ALT）らの審査員が、「表現の自然さ」「協調性のある親しみやすい態度」などの観点から評価。最も優れた生徒が勝ち上がる。

中学生たちは、面識のない他校の生徒と、アドリブの英会話を強いられるのである。しかも、審査員や大勢の参加者、応援の父母らの前で、だ。

予選では、話に詰まって気まずい沈黙に陥るグループもあったが、競技が進むにつれて、会話を楽しむ生徒が増えてきた。決勝では、話がバレンタインデーにそれて、男子生徒が「来年は僕にチョコレートをください」と大胆発言。女子生徒が「……嫌です」と断る一幕もあり、会場の笑いを誘っていた。

身ぶり手ぶりや笑顔も評価される

熱戦の末、中1の部では芦ケ谷壮摩君（市立鬼怒中学校）、中2の部では芦ケ谷満里奈さん（同）が優勝を飾った。

入江昭三郎YE委員長は「英語が話せることは国際人の基礎。子どもたちに世界で活躍する基礎を作ってあげたい」と話していた。

楽しそうだが「頭の中は真っ白」という

ゲームを捨てよ外へ出よう たこあげ大会に子ども600人

千葉県・松戸南ライオンズクラブ

■取材／編集部

懸命に糸を繰る参加者

東京都心から東に約20キロ、江戸川を挟んで東京都葛飾区に隣接する松戸市。同市の松戸南ライオンズクラブ（千葉慎治会長／25人）は1月8日、江戸川の河川敷で「青少年健全育成たこあげ大会」を開いた。日本の伝統的な遊びを子どもに伝えようと毎年行っているもので、今年で4回目。市内の小学生と父母ら600人が参加、手作りの凧（たこ）を揚げた。

凧は、クラブが事前に配布した教材用の「ぐにゃぐにゃ凧」。簡単に作れて、よく揚がる。

この日は、天気がよくて風もあるという絶好の凧揚げ日和。子どもたちが糸を引いて走ると、干支のイノシシなどを描いた色とりどりの凧が一気に上昇、上空を彩った。凧揚げ初挑戦の小学1年の女児は「難しいけど、楽しい」とにっこり。保護者の30代の男性会社員は「最近の子はテレビゲームなどで、外で遊ぶことが少ないので、こういう機会はありがたい。自分も楽しんでいる」と凧を操りながら話してくれた。

緊張の面持ちで風を待つ

会場には、羽子板やベーゴマも用意され、ライオンに教わりながら遊ぶ子どもたちでにぎわった。また、同クラブが支援している市立松戸高校吹奏学部による演奏も大会に華を添えた。

最後に、メンバーの作った「夢」と大書された4メートル四方の大凧が登場。地元の凧揚げ名人・鈴木富治さんの指導の下、綱を持つライオンズが駆け出して、いざ大空へと思いきや、風をとらえられず墜落。夢に終わった。

千葉会長は「今の子どもは家の中でゲームばかり。うちの子もそう。やっぱり、子どもはこうやって外で遊んだほうが健康的でいい」と笑顔で話していた。

親子で凧揚げを楽しむ

新年恒例の武道大会　小中学生ら1200人出場

千葉県・富津ライオンズクラブ

■取材／編集部

房総半島の西南部、東京湾の入口に位置する千葉県富津市。富津ライオンズクラブ（福原敏夫会長／23人）は1月14日、新年恒例の「富津市青少年新春武道大会」を開いた。26回目の今年も、県内外から小中学生ら約1200人が参加。柔道、剣道、空手、なぎなたの4種目で、日ごろの鍛錬の成果を競った。

会場は、市社会総合体育館と富津中学武道場の2会場。父母などの応援者や審判などの大会関係者を含めると約2000人が集まる大イベントである。大会運営スタッフは、高校生のボランティアが大半で、この大会の出場経験者だ。

常に動く空手は実戦的な印象

種目別のおおよその出場者数は、柔道500人、剣道500人、空手200人、なぎなた30人。体育館では、柔道を除く3種目の試合が同時に行われ、館内は気合の入った掛け声が響き、家族らの声援で湧いた。

面白いのは、各武道の雰囲気の違いである。柔道は、ドッカとあぐらかいたコーチが、選手に「攻めろ、ほら！」と檄を飛ばすなど荒っぽい。剣道は、ぴんと空気が張りつめ、スマートな印象を受ける。常に細かいステップで体を動かす空手は実戦的な感じ。なぎなたは、女性の武道らしく礼儀作法重視で、おしとやかである。

大会は、団体と個人戦、学年別など計24部門で、約7時間にわたって熱戦が繰り広げられた。裏方全般を務めたライオンズも、かなりお疲れの様子。大会委員長の粕谷達郎幹事は「武道を通して、強さだけでなく、負けた者を思いやる優しさも身につけてほしい」と話していた。

なぎなたの形を披露する選手

古墳復元めざし小学生と埴輪800個作る

群馬県・高崎三山ライオンズクラブ

■情報提供／富田孝史（青少年指導委員長）

埴輪作りに取り組む小学生

高崎三山ライオンズクラブ（笠原仲雄会長／71人）は、古墳を復元する「プロジェクト6000」に参画している。同プロジェクトは、高崎市内にある八幡塚（はちまんづか）古墳の周囲に、市民の作った6千本の円筒埴輪（はにわ）を並べ、1500年前の姿によみがえらせるというもの。2000年に、市民に埴輪に触れる機会を提供し、地域の歴史に関心を持ってもらおうと、市立かみつけの里博物館の主導で始められた。

同クラブは、このプロジェクトに最初から参画。毎年4回、クラブ主催のバレーボール大会に参加した児童やその保護者ら約50人を招き、埴輪作りに取り組んできた。このアクティビティには、これまでに延べ1200人が参加。地域のボランティアやライオンズの指導の下、円筒埴輪約800個を作った。中には、何度も参加して、指導する側に回った子どももいる。

メンバーに教わりながら埴輪を作る

円筒埴輪は高さ50センチ、直径30センチ。約10キロの粘土を細く伸ばして円形に積み上げ、表面をならして作る。所用時間は6時間ほど。土台部分は順調でも、上にいくに従って形がゆがんだり、割れたりすることもある。結構、重労働で難しいのである。埴輪は乾燥させた後、2日掛けて素焼きにされ、同博物館の職員が古墳に設置する。

富田孝史・青少年指導委員長は「子どもたちに、土に親しみ、モノを作る喜びを感じてほしい。今後も6千本に向けがんばりたい」と話す。

現在、八幡塚古墳には半数の3千本の埴輪が並ぶ。このペースでいけば、6千本達成は5年後の見込みである。

埴輪が並び復元の進む八幡塚古墳

茨城県・北茨城市

西がフグなら、東はこの私。『胆』であなたを魅了します。

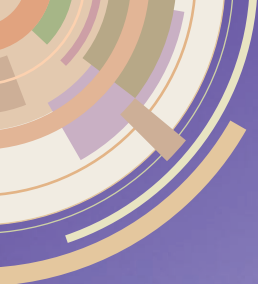
■文／砂山幹博　写真／田中勝明

「東のアンコウ」不遇の時代

茨城県は東日本を代表するアンコウの産地。中でも県最北端、北茨城市の平潟港は県内最大の水揚港だ。親潮と黒潮が交差する常磐沖はエサが豊富。春に産卵を控えているため、海の底で身体にたっぷりと栄養を蓄わえ込んだこの時期のアンコウはたいへん美味。旬の味を本場で堪能しようと平潟を訪れる人々は後を絶たない。定番はアンコウ鍋だが、そんなにうまいのであれば、いろいろな食べ方があるのだろうと、地元の人に尋ねると意外な答えが返ってくる。

「地元の人はアンコウって食べないよ。特に鍋はね」

平潟の人々はアンコウを「猫またぎ」と評していた時代がある。つまり、猫もまたいで通るぐらい見向きもされない魚という意味。今でこそフグやヒラメ並みの価値ある高級魚だが、30年前は捨てる程捕れた魚であった。さすがに捨ててしまうことはなかったというが、買ってまで食べる魚でなかったのは確か。当時は鍋で食べるのはまれで、アンコウの皮や身を茹で、酢味噌に肝を混ぜる「とも酢和え」で食べる人がほとんど。今でも地元の人たちがいちばんおいしいと思うアンコウ料理は鍋ではなく「とも酢和え」だという。

【扉写真】外見に似合わず身は上品な白身で味は淡白。「西のフグ、東のアンコウ」と並び称される茨城を代表する冬の味覚だ
❶1・5メートル、30キロを超える大物がお目見えすることもあるが、近年は小型化。大物を見る機会も少なくなっているという
❷市場では、腹が上になるように並べられる。まるまると肥えたアンコウは11月から1月の間、高値で取り引きされる
❸天然の入り江を利用した良港・平潟港は、江戸時代は東廻り航路の寄港地として栄えた

アンコウ鍋の街・平潟が誕生するまで

日曜の昼、競りがあるというので港へ行ってみた。底引き漁で捕れたアナゴやヒラメ、イカにタコなど実にさまざまな種類の魚の姿が見える。漁場は水平線の向こう、常磐沖の水深100～300メートルの海底。日曜の昼に港に戻ってくる船は、土曜日の午前2時に出航するというから、海の上で一晩泊まり掛けで漁を行う。多い時で週に3度は漁に出る。水揚げされたアンコウは築地市場に出荷されるが、地元でもニーズが高い。温泉街でもある平潟には民宿が20軒近くあり、どこもアンコウ料理が定番。地元の民宿では、築地市場に並ぶより早くさばかれた新鮮なアンコウが食べられるのが売り。これを目当てに冬の平潟に人が集うのである。

平潟港でアンコウが捕れるようになったのは、底引き網漁が始まった30年程前。当時の漁は高級魚のヒラメ狙いであった。もともとこの辺りには、風光明媚な五浦海岸を始め美しい海が広がっている。夏ともなると海水浴客で界隈の民宿はにぎわっ

4

5

た。夏に民宿で食べた新鮮な魚介の味が忘れられなかったのか、冬になっても客が集まるようになった。この時お客さんに出していたのが鍋。しかもこの時期よく捕れ、安く手に入ったアンコウの鍋であった。

「アンコウの鍋目当てでお客さんが来始めるようになったのは10年ぐらい前から」と話すのは、平潟港で民宿を営む篠原聡さん。アンコウ鍋の認知度が爆発的に上がったのはその後のメディアの影響によるが、アンコウにスポットライトを当てたのは、民宿の功績が大きいことは間違いない。

無水で煮込む「ドブ汁」の魅力

民宿で出された鍋というのが、アンコウ鍋のルーツ「ドブ汁」であった。もともとは、料理をするための水を積んでいない漁船の上で考案された漁師料理だけあって作り方は合理的。水を1滴も使わず、アンコウの身から出る水分だけで身と肝を味噌で煮込む。野菜は入っても大根とネギといったあり合わせのみで、シンプルかつ濃厚な味わいを楽しめる。が、アンコウが見直されその値が上がると、身を大量に使うドブ汁は、手頃な民宿料理ではなくなってしまう。そこで、身を少なくする代わりに白菜などの野菜を加え、濃厚な汁を出し汁で薄めて食べやすくし、鍋料理風にアレ

❹食べ頃のアンコウを余すところなく堪能するなら、アンコウ鍋のルーツ「ドブ汁」に尽きる
❺近隣の民宿旅館や水産加工業者らの有志で始まった朝市も、今年で4年目を迎える
❻切り立つ崖の先端に建つ朱塗りの六角堂は、かの岡倉天心お気に入りの場所だった

ンジしたものがアンコウ鍋ということになっている、らしい。「らしい」というのは、ドブ汁とアンコウ鍋の明確な定義づけが難しくなっているからだ。民宿ではそれぞれ独自の色を出そうと、いろいろな工夫を凝らしたアンコウ鍋やドブ汁を考案し、新たな味覚を追求している。ただ、ドブ汁にしてもアンコウ鍋にしても、生の肝を鍋に入れて空煎りをしたものに味噌を加える作り方は、この地方ならでは。鮮度の高い胆をすりつぶして煮込んだ鍋の味は格別である。

岡倉天心と五浦海岸

その海岸線の美しさは「日本の渚100選」に、またその波音は「日本の音風景100選」に選ばれた太平洋を臨む五浦海岸。文字通り五つの浦から構成された絶景である。大小の入り江と美しいクロマツの林を眺め、打ち寄せる太平洋の波音を耳にしながら、岡倉天心はここでどんな思いを抱いていたのだろうか。明治時代、日本美術の復興・保存に励み、日本文化を広く海外に紹介し、自らも創作活動にいそしんでいた天心が晩年、思索と静養の場として居を構えたのが人里離れた五浦であった。衰退が著しかった日本画の新たな創造運動を進めるために創設した日本美術院の一部をこの地に移転し、横山大観や下村観山ら青年画家を引き連れて移住してきたのは明治39年のこと。朱塗りの六角堂を中心に、100メートル圏内に彼らの家が建てられ、家族も移り住まわせた。美術院の研究所は、海岸線に突出した岩盤の上に建てられ、足下には打ち寄せる波が見下ろせたという。まさに彼らの背水の陣を表現したかのような出で立ちであった。この研究所で生まれた数々の作品は、後に近代日本画史に残る名作となっていく。現在もこの地には、当時をほうふつさせる六角堂や日本美術院跡地などの史跡が点在し、散策を楽しむことが出来る。

研究所内の木立の中にひっそりと佇む旧天心邸

クラブ紹介

北茨城ライオンズクラブ（中根教文会長／20人）が活動する北茨城市は、日本画壇の巨匠・岡倉天心や横山大観らが留まり、「七つの子」「船頭小唄」などの童謡を数多く残した詩人・野口雨情を輩出するなど芸術文化を育んできた土地柄である。1969年に日立ライオンズクラブのスポンサーで結成されて以来、雨情の故郷・磯原海岸の清掃奉仕や「雨情の里港まつり」における物品販売など、地域に密着したアクティビティを行ってきた。中でも最大規模で行われているのが、毎年12月に市内の中学生の代表を集めて行う「中学生中央弁論大会」。市内5校の各学年から選出された代表1人が一堂に会してそれぞれ弁論を披露。特に優劣を付けずに参加者全員を表彰していることと、貴重な学校外交流の機会として評価されている。その他、7月の「青少年健全育成の集い」や11月の「市内スポーツ少年団サッカー大会」など青少年育成事業を中心に活動を行っている。

■北茨城ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（65ページ）

奔流50年　回想の日本ライオンズ

●第4回

倍増、倍増また倍増の302地区

春日八郎はまだか！　罰金を取るとは何事か！

草創期、クラブの結成にかかわった人たちの中には、そもそもライオンズクラブとは何かが分かっていない人もいた。関西のクラブでは「ライオンズクラブは野球の応援団とは違いまっせ」という冗談ともつかぬ言葉が飛び交っていた。そんな中でもエクステンションの努力が続いた。

54年頃、全国のクラブ数はまだ12だったが、それでも本州、四国、九州にクラブが誕生していた。北海道にはいまだ一つもない。56年、神戸の前ガバナーが札幌に飛ぶ。６日程滞在して、その間にクラブを結成しようというのである。綿密に人脈をたどってライオニズムが説かれ、日本で22番目の札幌ライオンズクラブが誕生してしまう。１年後、札幌ライオンズクラブが小樽に日本で43番目の小樽ライオンズクラブを誕生させる。

「ライオンが集まって飲んで、トラになればライガーだ」と北海道のライオンたちは元気だったが、国際協会との連絡は途切れがちだった。当時の連絡はまだ英文であった。中には会費の督促状もあったが、訳すのは面倒だとしばらく無視されていた。「事務をしっかりしてくれ」と言われた。「いや我々は総務委員会を作ってちゃんとやっています」「そんな委員会は規則にありません」「無くても構わん。うるさいこと言うなら、北海道は独立だ」と威勢のいいことを言う会員もいた。何しろ「ライオンズ・ビー・アンビシャス！」が当時のモットーだった。その勢いが、北海道でのエクステンションに弾みをつけていく。

1955年5月、神戸市で開かれた第1回302地区年次大会の様子

年次大会でもクラブの拡張、増強が決議されていく。「各クラブは一つ以上のクラブを結成するよう」（56年）、「県庁所在地に至急クラブを組織する」（57年）、「ライオンズクラブの無い県をなくしよう」（59年）。急速に拡大したせいか、中には例会のやり方が分からないクラブもあった。勢い余って、例会のたびに芸者衆を呼んで大いに楽しんだクラブもあった。親クラブから厳しく叱られたのは言うまでもない。例会で「ファイン（罰金）」を取ると聞いて猛烈に怒った会員もいた。「会員から罰金を取るとは何事か！」

クラブの認証式に併せてアトラクションを計画したクラブもあった。70年に認証された高崎和田ライオンズクラブは、全国で１４７９番目のクラブであった。このクラブは認証式のアトラクションに春日八郎ショーを組んだ。何しろ「お富さん」「別れの一本杉」の大ヒット曲を持つ人気歌手だけに満員の盛況だったが、肝心の歌手の乗った車が、渋滞に巻き込まれて時間になっても到着しない。消防の音楽隊で時間をつないだが、気が気でない。主役到着の知らせに、クラブ全員が冷や汗を拭ったという。

その年、全国のクラブ数は１５３２。日本列島では、まだまだクラブ増大が続いていく。

（原武夫）

Official Lapel Emblems

一般会員用襟章

B-8-GF
- 小型（0.8㎝）
- ホワイト・ゴールド張り
- 13.09ドル（1,558円）

B-4
- 小型（0.8㎝）
- 10金
- 41.96ドル（4,993円）

B-2
- 標準型（1.5㎝）
- 金メッキ
- 5.19ドル（618円）

B-2-GF
- 標準型（1.5㎝）
- 金張り
- 26.89ドル（3,200円）

B-16-SP
- スティックピン
- 中型（1.2㎝）
- 金メッキ
- 4.67ドル（556円）

B-17
- ウィ・サーブピン
- 超極小型（0.6㎝）
- 金メッキ
- 2.80ドル（333円）

B-4-D
- 小型（0.8㎝）
- 10金ダイヤ4個入り
- 215.81ドル（25,681円）

B-4-GF
- 小型（0.8㎝）
- 金張り
- 13.09ドル（1,558円）

クラブ役員用襟章

★繁忙期（5月～7月）はお手元に届くまで10日以上かかりますのでお早めにご注文ください。

BJ-6
- 標準型（1.5㎝）
- 10金ダイヤ6個入り
- 406.29ドル（48,349円）

BJ-5
- 標準型（1.5㎝）
- 10金
- 174.44ドル（20,758円）

B-5-J
- 標準型（1.5㎝）
- 10金パール4個ダイヤ2個入り
- 265.97ドル（31,650円）

B-1
- 標準型（1.5㎝）
- 金張り
- 37.18ドル（4,424円）

B-18
- 中型（1.2㎝）
- 金張り
- 33.34ドル（3,967円）

役員用襟章は各役職あります。

襟章にはそれぞれ現役員用と前（元）役員用（Past役員名入）があります

灰皿　G46G NEW
- ガラス製（透明）
- サイズ：直径11cm
- 1.08ドル（129円）

※数に限りがございます。お早めにご注文下さい。

ご注文はクラブ事務局を通じてお願い致します

●ドル単価は2007年2月現在のものですが協会本部の指示により、変更されることがあります。括弧内に1ドル119円（2007年2月レート）で換算した円単価を、ご参考のため記載しました。レートの変更により円単価は変更になります。

ライオンズクラブ国際協会日本事務所（JR五反田駅徒歩7分）

〒141-0031東京都品川区西五反田7-22-17 T.O.Cビル6階16号 TEL.03(3494)2931 FAX.03(3494)2933

『ライオン』誌 創刊50周年記念 論文募集

■テーマ

「明日のライオンズを考える」

THE Lion IN JAPANESE

『ライオン』誌日本語版は日本にライオンズクラブが誕生して6年目の1958年、ライオンズクラブ国際協会の公式機関誌として創刊されました。それまで配布されていたのは英語版で、日本語版発行を望む声に対して国際本部は会員3,000人以上という目安を示しました。この時、56年6月末の会員数は1,040人。それが翌57年6月末には2,600人を超え、58年には一気に4,000人に迫り、『ライオン』誌日本語版創刊号は4,500部で発行されました。

2008年、日本ライオンズの歴史を活写してきた『ライオン』誌日本語版は創刊50周年を迎えます。ライオン誌日本語版委員会はこれを記念し、ライオンズの明日を考え、将来の展望を開くことを期して「明日のライオンズを考える」をテーマに論文を募集します。奮ってご応募ください。

募集要領

＜テーマ＞ 「明日のライオンズを考える」-----クラブ運営やアクティビティなどについて普段感じていること、考えていることを踏まえて、明日のライオンズ像を論じてください。

＜文字数＞ 2,000字程度

＜締　切＞ 2007年10月10日（金）必着

＜応募資格＞ 日本国内のライオンズクラブ会員

＜審　査＞ ライオン誌日本語版委員会
（日本選出の国際理事と8複合地区選出のライオン誌日本語版委員）

＜発　表＞ 『ライオン』誌50周年記念誌掲載

＜応募要領＞ ●氏名、所属クラブ名、年齢、住所、電話番号を明記してください。
●Eメール、郵送、FAXのいずれかの方法でライオン誌事務所に論文を送付してください。 応募論文は原則として返却しません。

＜送付先＞ Eメール：edit@thelion.jp　FAX：03-3546-2630
住所：〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所
＊Eメールの場合は表題、FAXまたは郵送の場合はあて先に「50周年記念論文」と明記

YE生ラビニアさんとの日々

三谷　弘子（福岡県・宗像）

前年度にYE委員をしていたこともあり、今回、来日生受け入れのホスト・ファミリーをお引き受けしました。YE生は、イタリア・ローマ大学のチアンブローネ・ラビニアさん（23歳）。滞在は8日間です。

我が家は、私とリハビリ中の主人、娘夫婦に孫の拓海（7歳）、愛海（4歳）、克海（2歳）の7人家族です。受け入れが決まってからというもの、娘と孫3人は本を片手にイタリア語の猛レッスン。学習場所は、保育園の送迎バスの中だったらしく、最低限のあいさつ、自己紹介……まあ、こんなところから始まったようです。

空港へ迎えに行った時、普段は元気が良すぎて困る2歳の孫が、こわごわラビニアさんに近寄り、蚊の鳴くような声で、「Buona（ブオナ） Sera（セーラ） Michiamo（ミキアーモ） カツミ　ハナダ（こんばんは、私の名前は、花田克海です）」と、自己紹介しました。これが、ラビニアさんとの初めて出会いでした。

ラビニアさんと過ごした様子を少しお話し致しましょう。

2階からすがすがしい歌声が聞こえ、トントントンと弾む足音。「カッチャーン　マナチャーン」と孫の名前を呼ぶラビニアさんの声が家中に響き渡り、「抱っこしてよー」と甘える孫2人。ワイワイガヤガヤ、まるで天使が舞い降りてきたような光景でした。

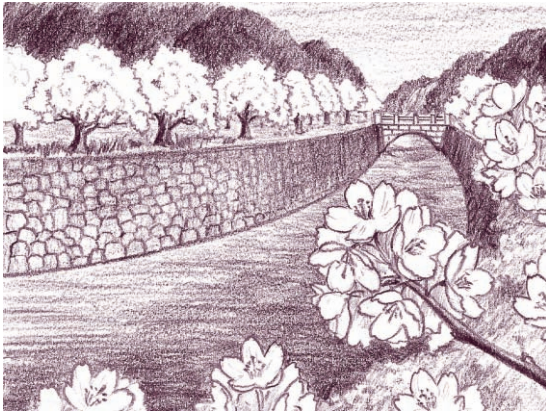
また食事時になると彼女は、「オトウサン、ドウゾ」といちばんにお膳を並べてくれます。主人は、鼻の下を長くしてにこにこ顔で、「ありがとうございます」。それに対してラビニアさんも「ホントウニ、ホントウニ、オットウサン、ダイスキデス」と言ってくれるので、笑いが止まらぬ主人でした。

私たち家族は、日本語しか話すことが出来ませんでした。「大丈夫、どうにか成る」という娘の太っ腹の一言を真に受けたものの、ラビニアさんには、大変苦労をかけたようです。イタリアから持ってきた辞書を指差しながら、「ウーン、コレナンデスカ？」が度々でしたから。しかし、日増しに日本語が上手になっていきました。

最後の2、3日は大学院生の甥が駆けつけてくれたので、ラビニアさんに思いきり英語で話してもらおうと思っていました。しかし彼女は「日本語を覚えたいから、会話は日本語で大丈夫です」と、気を遣っていたそうです。

我が家を離れる日、私、娘、ラビニアさんは手を取り合って大粒の涙を流しました。

ローマで再会しましょうと去っていったラビニアさん、本当に素晴らしい思い出を残してくださってありがとうございました。

（管工事業・64歳）

イラスト／小川和政

日本アイバンク協会認定サポーター研修会

加々美 富明（山梨県・甲府北）

330－B地区にアイバンク・サポーターが4人しかいないことを知ったのは、私が、330複合地区献腎・献眼委員会にオブザーバーとして出席した時でした。

これまで330－B地区腎・アイバンク委員会の活動は、セミナーを開催し、会員にこの事業の大切さを周知するのが役割で、それによってこの事業が推進されてきたことは大きな成果でした。しかし、各クラブの活動状況には温度差があり、熱心に推進しているクラブもあれば、ほとんど活動していないクラブもあります。

そこで今年度の腎・アイバンク委員会では、これまでの経緯を踏まえて、どうすれば330－B地区全体の腎・アイバンク活動が活性化出来るか検討した結果、㈶日本アイバンク協会認定のサポーター制度（アイバンク業務を補助するアイバンク・サポーターの認定と役割を定め、角膜等の移植の推進に貢献するのが目的）を取り入れ、各クラブにアイバンク・サポーターを置いて、積極的な周知活動と献眼に至るまでの補助活動を推進していくことを目標にしました。

当初、腎・アイバンク委員会では330－B地区のブロック制に沿って、4カ所でセミナーを開催する計画でしたが、日本アイバンク協会の指定講師による研修が必須条件であることから、神奈川県、山梨県で各1回、腎・アイバンク委員会セミナーと日本アイバンク協会認定サポーター研修会を兼ねて開催することが決定しました。

山梨県では、平成18年10月27日（金）山梨県地場産業センターにおいて開催されました。キャビネットからは古郡保郎地区ガバナー、矢部祥榮幹事、水知晴美会計が出席され、山梨県内のクラブからは、56人のメンバーが受講しました。

開会にあたり山梨ブロック・マネージャー渡辺和廣ライオンから「アイバンク事業推進に関して、アイバンク・サポーターを腎・アイバンク事業の今後の活動に有効に活用してください」とあいさつがあり、続いて古郡地区ガバナーは、アイバンク・サポーター研修会を330－B地区で初めて行う意義を述べられ、受講生を激励されました。

その後、日本アイバンク協会理事長・所敬氏（東京医科歯科大学名誉教授）の講演に移

りました。内容は、角膜移植の歴史から現状までを話され、現在、毎年5千人が角膜移植を待っている状況を説明し、今後アイバンク・サポーターとして更なる協力をお願いしたい、とライオンズクラブに対しての期待を述べられました。研修会は約1時間半。専門的な内容でしたが、受講生は熱心に耳を傾けていました。研修終了後、各人に受講証明書が交付され、後日、サポーター認定証が送られる旨説明がありました。

神奈川県での研修会は12月11日（月）、神奈川県民ホールにて開催され、106人が受講しました。こちらは2部構成となり、第1部では㈶かながわ健康財団腎・アイバンク推進本部・下村佐和子氏の講演。登録時の問題点（家族の同意等）、献眼の実態と問題点、角膜移植を受けた方の声などを説明されました。第2部は日本アイバンク協会常務理事・金井淳氏の講演。内容は山梨とほぼ同じで、研修終了後、質疑応答の時間、受講者の活発な意見交換があり、私は、この研修が今後の腎・アイバンク活動に必ずや役立つであろうと確信しました。また、複数のクラブから下村氏の講師派遣要請があり、早速アイバンク・サポーターとしての姿勢を感じました。

今回、330-B地区ではアイバンク・サポーターが、一挙に162人も誕生しました。これまでに無い快挙です。研修の成果を無駄にしないよう、アイバンク・サポーターの皆様の今後のご活躍を期待します。

（不動産賃貸業・69歳）

「老春」を迎えて

坂田 光輝（熊本県・荒尾）

昨年は100歳以上のお年寄りが2万8千人以上、今年は3万人を超すだろうと言われています。そのうち8割は女性です。

平均寿命は男性78歳、女性は85歳と、統計上は女性が7歳も長生きします。そう考えますと、女性は肉体的・精神的にも男性より断然優っていることが分かります。しかし、100歳の長寿でも寝たきりや認知症・車いすの生活者がほとんどで、テレビに出てインタビューに元気よく答えているお年寄りはわずかな数と言われています。

そうなるとほとんどの方は、家族の顔も分からなくなり、そのうち本人の意識もなくなって、最後は延命治療……。「生きている」というより「生かされている」。こんな状態で長寿なのかと考えさせられます。

よく、あの世に行くには、ピンピンコロリがいちばんだと言われていますが、簡単には天国への切符を渡してもらえないのが現実です。限りある命が、家族から悲しまれ惜しまれて逝くのか、あるいは「ホッ」とされて逝くのか誰にも予測はつきません。

20代が青春時代なら70代は老春時代。私も「古希」を過ぎましたが、正直言って70歳という年齢が実感として信じられません。

しかし、確実に日々老いていくのは間違いのない事実で、最近は、相手の容姿は鮮明に覚えていても、肝心な名前をとっさに思い出せないという経験が数多くなったと感じます。また、テレビや新聞で「健康」という二文字が報道されますと、つい敏感に反応して見たり読んだりする……これも老いの兆候でしょうか。

歳を重ねますと自己主張が強くなり、周りに「うるさい頑固おじいちゃん」と言われないよう気をつけたいものです。何事も100%のベストより70%のベター。「ほどほどに」ということです。

残された限りある人生を、あまりクヨクヨせずに「老け込むのはまだ早い」と暗示を掛けながら、これを合言葉として日々暮らしていきたいと思います。

（歯科医師・70歳）

第3回全国シニア・フォーラム in 横浜

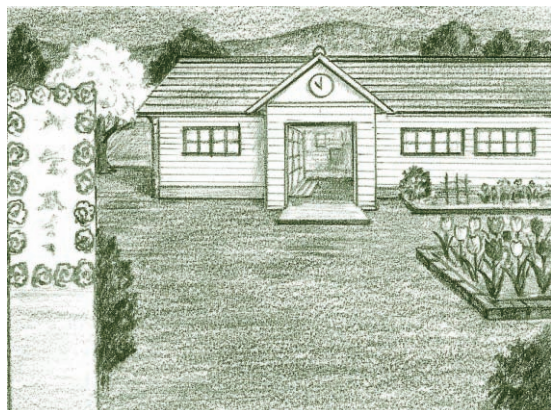
出澤 広（神奈川県・横浜シニア）

2003年9月、札幌シニア・ライオンズクラブが結成5周年に際し、全国のシニアクラブに呼び掛け、第1回のシニア・フォーラムを開催。その2年後、北の地から南の地へ。九州鹿児島・国分隼人天降川縄文ライオンズクラブがホストとなり第2回を開催しました。その年、仙台でのOSEALフォーラムで、ミニ・シニア・フォーラムを開催。そして今年、横浜で第3回を開催する運びとなりました。

団塊の世代が定年を迎え、第2の人生を歩む時期が到来してきました。そうした団塊の世代のセカンドライフに、奉仕活動への参加があると考えられます。

事実、近年NPO、NGOや海外協力隊などに参加し、自身の経歴を生かしたボランティア活動を行う人たちが増加しています。ライオンズクラブも、NPO、NGOなどと同様に選択肢の一つであることは間違いありません。

しかしながら、近年会員数の減少が著しい中、ライオンズクラブへの認知度の低さなど、かなりの障害があるのも事実です。私たちシニア・ライオンズクラブは、こうした現状を打開するため新しい分野でのメンバー増強を図ろうと、13年前に結成された下館シニア・ライオンズクラブを皮切りに現在38クラブが全国各地に展開しています。

私たちが今後、団塊の世代の受け皿的な存在になりうるのではないでしょうか。ライオンズクラブ国際協会の構成員である私たちが、今までに培ってきた経験を踏まえて、新しい形のアクティビティを創造し、一人でも多くの方たちにライオンズクラブの理念と活動を理解して頂き、参加して頂けるようなクラブ作りを目指し、このシニア・フォーラムを開催致します。

大会会長のライオン星山春雄（埼玉県・熊谷シニア）、実行委員長のライオン北見和夫（神奈川県・横浜シニア）を中心に5月22日、横浜中華街のローズホテル横浜で開催します。ホストクラブは330複合地区所属のシニア・ライオンズクラブ（大宮シニア、熊谷シニア、東京多摩グラッド、横浜シニア）が共同で行い、シニア・メンバーの知恵を結集したフォーラムを実施しようと張り切っています。

フォーラムでは伏見龍国際理事による基調講演「シニア・ライオンズクラブの役割、2007年問題への対応」に始まり、その後、三つのテーマでシンポジウム形式の分科会を実施。最後にフォーラム宣言を採択、と充実した内容で行って参ります。

ライオンズクラブのメンバー以外でも参加可能で、活発な意見交換が出来ればと願っております。

詳細はフォーラム実行委員会事務局（横浜シニア・ライオンズクラブ事務局内／電話・ファクス：045・842・0636）、またはEメール（forum-yokohama@zpost.plala.or.jp）へ。

（マスメディア関連コーディネーター・47歳）

故谷川榮一元国際理事に捧ぐ

カジット・ハバナナンダ
（タイ・バンコク・コスモポリタン）

谷川さん、あなたに最後にお会いしたのは、今からほんの数カ月前、私の父の99歳の誕生祝賀会にご出席くださった時でした。その時はいつもの通りお元気そのもので、いかにも人生を楽しんでいらっしゃるようにお見受け致しました。強いて申せば、お身体の動きが、やや緩慢かなという気がしなかったわけではありませんでしたが、それでも来年の100歳の誕生日にも必ず戻ると父にお約束くださいました。それが、こんなにすぐお別れすることになるとは、信じられない思いです。

あなたと私とは、30年前に私が国際理事に立候補するずっと以前から、ライオンズクラブの仕事と友情を分かち合う親しい仲でした。アトランタで私が理事に選ばれたのが1982年、それから1年後の83年にはあなたがハワイで理事に就任されました。ですから私たちは1年間だけ同期の理事として一緒に国際協会の仕事に励み、ますます親しさを深めました。特有の円満なご人格と、魅力あるお人柄から、あなたは国際理事の間でも、またそれ以外の一般のライオンズの間でも、誰からも好かれ、際だって人気がありました。

私たちの友情はその後、家族ぐるみの打ち解けたお付き合いに発展し、毎年、何度かは一緒になる機会を持つことが出来ました。もちろん、私たちには年齢にかなりの違いがありましたが、あなたは年齢の差など全く感じさせないで、同等に扱ってくださり、今思い返すと本当に多くのことを教えてくださいました。特に、トマトジュースにビールを混ぜて飲むことなどは、あなたでなければ到底教えてもらえなかったと思っています。

あなたと奥様は、私の息子と娘の結婚式にも、母の葬儀にも駆けつけてくださいました。ライオンズ関係であろうと、家族のためであろうと、お出でくださいとお願いして、お断り頂いたことは一度もありませんでした。何よりもうれしく、ありがたく思っています。

思えばあなたの人生はライオンズクラブの会員として、長年にわたり意欲と善意にあふれる積極的な活動を続けられ、社会奉仕にすべてを捧げてライオニズムの精神を生き抜かれた尊い一生であったと申せましょう。従って、あなたの逸話はそれこそたくさん残っています。何年も前のことになりますが、当時のビッグス国際会長がマニラでの東洋・東南アジア・フォーラムに出席出来ないからと、あなたを会長代理に任命されたことがありました。これは今でも関係者の間で語り草になっていますが、あなたは「4日間だけではあっても、自分は国際会長を務めたことがある」と誇らしげに言っておられたものです。

あなたが米寿のお祝いを催された時、所属されていらした鹿児島ライオンズクラブが近い将来、結成50周年を迎えるから、その時はクラブ会長に立候補して、盛大な祝賀会を行い、クラブが一層、より良い奉仕をするようにしたいと楽しそうに話しておられました。それも今はかなわぬ夢となってしまったことが、何よりも悔やまれます。

私にとりまして、偉大なライオンズ・リーダー、心温まる友人としてのあなたの思い出は尽きることがありません。これからもあなたの思い出は多くの人に語り継がれていくことでしょう。公私とも本当に惜しい方を亡くしたと残念でなりません。あなたと人生の触れ合いを持った私たち一人ひとりが、それぞれの思い出を胸に、亡きあなたを偲んで参ることと思います。ジミー・ロス国際会長及び国際協会に代わり、ご遺族の方々に深い哀悼の念を捧げ、あなたのご冥福を心からお祈り申し上げる次第です。合掌

（元国際会長）

俳壇

■選者　森　澄雄

【入選】▼

初詣絵馬に願ひの受験生
（北海道・岩見沢中央）伊藤　啓一

招かれて観る初場所の桟敷席
（東京御茶の水）栗原保之助

合格とわかる受話器の弾む声
（愛知県・南知多）内田二三子

老夫婦隙間風にも住みなれし
（静岡県・三ケ日）足立　貞男

松籟の明石大門に淑気満つ
（兵庫県・神戸シニア）中村麦芽子

伝説を秘めし大江の山眠る
（大阪夕陽丘）中村　豊彦

初釜や裾に鶴舞ふ晴着かな
（大阪府・池田）池内　彰

回廊に積める笹の香宵戎
（大阪府・堺浜寺）平井喜世子

雪催ふ金剛の嶺の見えかくれ
（大阪府・堺浜寺）宮部　嘉博

眠る山よりやまびこの返りけり
（和歌山県・伊都高野山）慈幸　貴洋

那智の滝真上に冬の月置けり
（和歌山県・新宮）鶴田　徹眞

浮寝鳥戦火に消えし画学生（長野県上田市・無言館）
（京都醍醐）國松倭都子

啓蟄や松の菰焼く煙立ち
（京都府・夜久野）足立　優

ひよ去れば目白飛びくる狭庭かな
（佐賀県・唐津レインボー）古川　工

突風に散らぬ威厳の梅大樹
（長崎北）平山　兼則

【特選】

人の日の志功の文殊菩薩かな
（千葉県・船橋シニア）紺谷　宗男

（評）人日（人の日）は正月7日のこと。中国の古俗に、元日から8日までの各日を鶏（とり）・狗（いぬ）・猪（いのしし）・羊・牛・馬・人・穀の日としたことから、人日という。この日七種粥を食べると1年間無病でいられるという。志功は木版画家の棟方志功（1903－75年）。人の日に志功の仏の智慧を象徴する文殊菩薩の板画を見ているのだ。

米寿・傘寿・還暦揃ひ屠蘇の膳
（大阪府・東大阪河内）美馬　利吉

（評）米寿は88歳、傘寿は80歳、還暦は60年で生まれた年の干支に還ることからいうので、数え年61歳。その3人が屠蘇の膳に揃っているのだ。めでたさ限りない。

（投稿要領→62ページ）

歌壇

■選者　春日真木子

【入選】▼

夕映えの十勝の雪原幾筋の凍結を進みしトラクターの痕
（北海道・幕別）山口　勝

防衛庁にひと回り大き防衛省の看板着せて威厳を正せり
（青森県・弘前）岩間　甫

空青き雲の白さや今朝の春今日はやるぞと空気吸い込む
（岩手県・藤沢岩手）藤沢　誠

珈琲のカップに浮きし白き泡地球儀に見る小島のごとく
（新潟八千代）荻島　俊雄

手際よくきびきび話す女子アナの天気予報は若さあふれて
（栃木県・西那須野）佐藤　嗣人

硬き棕櫚の亀の子たはしを握る手に無音の波動伝はりてくる
（千葉県・館山中央）荻野　貴子

参道のもみぢ落葉を風情とし箒掃かせず僧は踏みしむ
（兵庫県・山崎）竹田　長司

甘き香を吹き上ぐる風の真下には水仙咲きいて潮騒の音
（和歌山県・新宮）鶴田　徹眞

泣き叫ぶ老女を若きが抱きとめて取材のカメラに鋭き眼差し
（山口県・下関ウエスト）登根　邦彦

カミソリの刃は鋭くもさえざえと夜の机の上に光りぬ
（大分県・中津沖代）松本　達雄

【特選】

風のなき宮の真白き寒桜ふとみじろぎぬ神過ぎ給う
（石川県・羽咋）竹津　弘子

（評）「寒桜」は、『広辞苑』ではヤマザクラの一変種、花は淡紅色、暖地では2月頃満開とある。掲出歌の場合は「真白き」とあるから「冬桜」であろう。神社の宮居に近く、桜が真白く咲いている。寒中に咲くこの桜は、梅の花のように侘びしく、咲きみちても華やかではない。その真白な桜が、風もないのに、ふと身じろいだ。この四句までの現実に、五句は桜の花の間を神さまが過ぎられたのであろう、と想像力をひろげている。この五句により、寒中の桜は一層気高く読み手の眼に映るのである

（投稿要領→62ページ）

柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

脇役の能弁主役引き立てる

（青森県・五所川原）坂本　憲昭

（評）脇役、つまり主役でない役で、中心になる人を補佐する目立たない立場の人をさしていうのが一般的ですが、この句を拝読して、そうか、こういう脇役も存在するのだと気づかされました。あたかも主役のようにぺらぺら喋りまくることによって、だんまりを押し通す主役を引き立てる。饒舌が脇役、寡黙が主役。なるほどと思わせる一句。

水をやる妻の方見て蘭開く

（岩手県・水沢中央）高橋　渓声

（評）洋蘭にしても東洋蘭にしてもラン科の花はデリケートで、その肥培管理には気を遣います。水遣りも慎重です。ひごろ親身に世話をしてくれる妻の方に顔を向けて蘭は花開く、という句ですね。そんなバカな話あるものかと異議を唱えるのは、うたの心、花のこころをわきまえぬ方々です。妻は蘭に、モーツァルトやシューベルトまで聴かせているのです。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

友の背に吾が背を見たり八十路来る
（北海道・釧路まりも）岸本　照之

ひらかずば相手もあけぬ胸の内
（岩手県・水沢中央）千葉　章男

風邪に伏す妻にレトロの粥を出し
（岩手県・水沢中央）千葉　行平

政党を見て縄をなう気になれず
（岩手県・水沢中央）佐藤加代子

里の春総出で送る高島田
（新潟県・五泉）金子　昭三

悪友の酒と煙草と手が切れず
（千葉県・船橋シニア）灘山　徳治

暖冬で寝不足気味の熊の春
（千葉県・流山）皆川　春安

あるものは暇だけとなる老いの坂
（千葉県・東庄）藤崎　久男

苦手などないと言い張る寒雀
（岐阜中央）白木一刀子

子も孫も継がない屋根にカラスの巣
（福井県・美浜）山路　義隆

美しい国の夢からいつ覚める
（兵庫県・宝塚グリーン）中島　弘風

百までも生きては困る保険庁
（大阪府・東大阪河内）美馬　利吉

残された刻を多感に生きている
（宮崎橋）井上　忠一

発酵をじっくり待っているプラン
（長崎北）平山　兼則

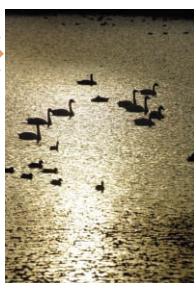
戦わずして勝つ鬼の懐手
（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

選：河相正名（日本写真家協会会員）

作治隆幸
大阪府岸和田シニア
［水面］

●選評

奈良の観光名所・猿沢の池。こじんまりとしたこの池は、年間を通して人通りの絶えることがない。冬は観光客もいくらか減って、古都を気ままに散策するにはベストシーズンなのかもしれない。まばらな観光客、屋台、看板。常識ではこれらをテーマとするが、これを映し出す水面を中心に据えている。見事なフレーミングと、水面の赤、黄、青、白など多彩な色彩が、静かな観光地を巧みに演出している。

菅谷寛
千葉県
小見川
［白鳥］

木村文丸　青森県弘前
［春の息吹］

梅田尊　愛知県豊田［撮ります］

松下正治　大阪梅田新道
［新雪の朝］

小柴登司　神奈川県横浜みなとマリン［takeoff 03］
横内孟　山梨県南アルプス［初秋の尾瀬沼］
畔柳東一　愛知県岡崎竜城［フィナーレ］
尾山剛　愛知県幸田［可愛い訪問者］
安藤正一　愛知県豊田［揃ってピース］
成瀬正幸　愛知県豊田［星砂の浜］
岩佐清　岐阜県高山［初雪］
髙屋利行　石川県金沢中央［モナコの夕景］
徳田修　大阪難波［富士山と山中湖の白鳥］
高山勇　和歌山県富田川［城壁］
吉野耕司　京都府宮津［弾薬庫跡・今は道路］
田尾忠士　愛媛県新居浜ひうち［飛び立ち］
菊野善之助　愛媛県松山ホスト［カトレヤの顔］
山野智要之亮　広島あさひ［文福茶釜］
上野春夫　広島県三原［火渡り神事］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。　http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

LIONS GALLERY

「城址と湖」油彩20号

約30年前、イギリス留学中に1人でヨーロッパを旅しました。その際、ドイツのロマンチック街道を通り、中世都市・ローテンブルクを訪ねました。近くに小さな湖と古城址を見つけ、その静寂さと美しい風景に感動を覚えました。

昨年、再びローテンブルクを旅行し、記憶を頼りにあの美しい場所を探しました。ツアー・コンダクターにもいろいろ尋ねましたが、場所が分からずがっかりしました。しかし、たまたまローテンブルクの町はずれを散策していると、突然、あの風景が30年前と同じ姿で現れたのです。再び深い感動に浸りました。そして、描いたのがこの「城址と湖」です。

（ちば　ひろすけ・80歳）

千葉裕典
東京柳橋ライオンズクラブ
医師
創元会準会員

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。　編集部

プログラムの重要性を感じた

●2月号THEMEで取り上げられていた、ライオンズクエスト・プログラムの詳細な事例がとても勉強になり、重要性を感じました。将来を担う青少年にライオンズが出来る最高のプログラムなのではないでしょうか。

高知よさこい●松尾真理子

学校の先生もアピール

●私の娘も学校を通して、平和ポスター・コンテストに応募させて頂いていました。「ライオンズ主催のポスター・コンテストは参加賞もいいので、がんばって応募しましょう！」と、いつも学校の先生が言ってくださっていたそうです。　奈良県・大和高田●石垣達也

YEがきっかけで交流続く

●2月号ピックアップ「YE、更なる発展のために」を読み、思い当たる点がいくつかありました。我が家も韓国の女の子を受け入れたことがあります。その時は娘たちが同年齢だったので、相手も出来ました。その娘さんは後に日本人と結婚し、10年以上経った今でも、私たちをお父さん、お母さんと呼んでくれ、遊びに来てくれています。　京都府・綴喜●宮本安

地元クラブが良い刺激に

●2月号こころのチキンスープ・ライオンズ編「忘れえぬ献眼」を拝読しましたが、偶然にも近くにある出雲南ライオンズクラブの献眼状況が詳しく書いてあり、心を洗われたように思いました。私たちも今年、地元の成人式で献眼運動を実施しました。これからも懸命にがんばるつもりです。

島根県・出雲●中家康次

アクティビティの見直し考える

●私は毎月「サービス・アクティビティ」「クラブ・リポート」を興味深く読んでいます。我が甘木ライオンズクラブでは、活性化提案委員会を設けて、アクティビティの在り方について検討しています。私も一委員ですので、この記事が大変参考になっています。ライオ

ライオン誌投稿要領

▼応募資格に特に記載のない場合は、ライオン、ライオネス、レオ及びその家族。
▼締切の記入のないものは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却はいたしません。
▼Eメールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。
▼いずれも住所、氏名、クラブ名を明記。

■こころのチキンスープ・ライオンズ編28～29㌻
●ライオンズにまつわる感動的なエピソードの概略、あるいは1,200～2,000字程度の原稿。ストーリーは本誌ライターが書き下ろします。

■サービス・アクティビティ30～31㌻
●活動日、場所、100文字程度の説明文を付記。写真はプリント（サービス判くらい）及びデータで。ServannAの「ライオン誌投稿」欄もご利用頂けます。

■クラブ・リポート32～36㌻
●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■論点～私はこう考える51㌻
●以下のテーマについてご意見や問題提起、疑問などを1,000～1,200字程度の原稿にまとめて。
「例会プログラム」「周年式典」「単年度制」「姉妹提携」「LCIF」「年次大会」「資金獲得事業」※その他ライオンズクラブに関する内容であれば可

■獅子吼52～56㌻
●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。
●題字はハガキ程度の大きさ。

■俳壇・歌壇・柳壇57～59㌻
●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■MY BEST SHOT60㌻
●会員及びその家族でアマチュア。
●応募作品：題材は自由。プリント（サービス判～2L判ぐらい）、スライド（35㍉以上）、またはデータ（JPEG最高画質）。1人5点まで。
●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、データはメールの添付書類で本文に、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■ライオンズ・ギャラリー61㌻
●応募作品：絵画、書、工芸などジャンルは自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（2L判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、作品のサイズ、題名を明記し、作品に関するエッセー、自評など（300字程度）、顔写真を添付。

■リーダース・プラザ62～63㌻
●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。
●伝言板：読者間の情報交換に。
●読者から：本誌への意見、感想など。

送り先：〒104-0045中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
ファクス：03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

ンズも不易と流行を考える必要があると思います。

福岡県・甘木●谷口好幸

地区分割、大賛成

●私は、2月号「論点～私はこう考える／1県1地区への地区分割を」の意見に大賛成です。ガバナー公式訪問は現状2～4ゾーン単位では規模が大きく、時間が短い。よってガバナーの方針、目標を詳しく聞いたり、質問することは不可能です。1県1地区になれば、それが可能。その他キャビネットの経費（旅費や移転など）も少なくなり、地区の実状に合った具体的、きめ細かな指導が出来ると思います。

宮崎県・川南●塩月利雄

人の恩に感謝出来る社会を

●2月号獅子吼「受けた恩は社会に返す」でライオン田口幸介が言っているように、人は一人では生きていけない。いろいろな人のお世話になって生きることへの感謝に感動しました。人の恩に感謝が出来る社会にライオンズクラブの活動を通して貢献したいと思っています。

沖縄県・浦添●大石哲也

1枚の写真から、想像膨らむ

●2月号マイベストショット最優秀作「霧降る町角」は、選者も言うように、まさにドラマの1シーンのようでした。1枚の写真からいろんな想像が膨らみ、楽しませてもらいました。素晴らしい作品です。

福岡県・久留米ちとせ●木村実

シールの効果絶大

●砥部ライオンズクラブ25周年記念式典でのこと。司会者から「今日はお酒は飲まないと堅く誓っている方は名札に赤いシールを貼ってください」とのことで、飲めない私はすぐシールを貼りました。お酒を注ぎに来られた人も、シールを見て勧めるのをやめますし、断る方もいちいち「車なので」と説明する必要もありません。このような気配り、とてもいい試みでした。皆さんも真似してみては？

愛媛県・松山つばき●荒川敏子

クラブ会員刊行物

●**獅子唐辛子**
著者／神尾風碧（ライオン神尾緑／愛知ひまわりライオンズクラブ）発行／新風舎（TEL 03・5775・5040）

B6判　本文52ページ
1,100円

こころと時間をことばにした、無限なる短歌の世界――。『風景2003』に続く第二歌集。

訂正とお詫び

本誌3月号において以下の誤りがありました。

16ページ谷川榮一元国際理事の訃報中、2001年のホノルル国際大会とあるのは2000年の誤りでした。

26ページSCENEの記事中、神戸須磨ライオンズクラブの会員数が85人となっていましたが、34人の誤りでした。

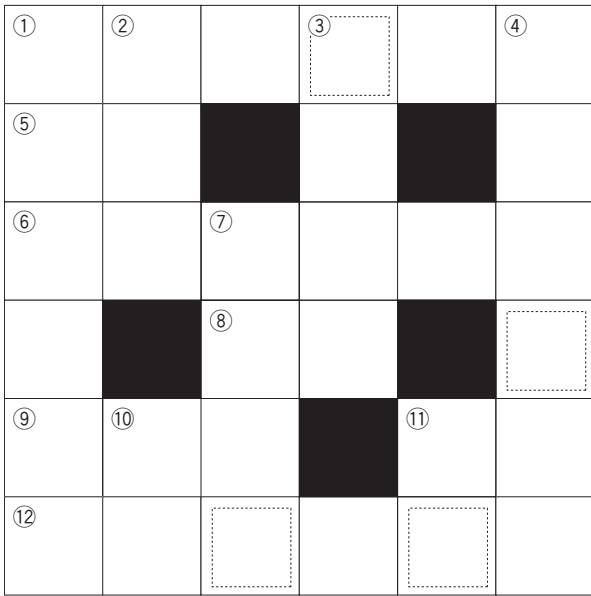
関係者各位にご迷惑をお掛けしたことをお詫びし、訂正致します。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

日付	所属	氏名
2/9	茨城県水戸	大高宣靖
2/16	千葉	岡野正義
2/19	広島県三原浮城	玉浦巖
2/19	広島県三原浮城	渡部厚
2/19	広島県三原浮城	沖藤詳造
2/19	広島県因島	河井實
2/19	広島県尾道	政成龍男
2/19	広島県久井	新歩一昇
2/19	広島県尾道みなと	岡本美智男
2/19	広島県本郷	高橋英晶
2/19	広島県甲山	藤井義雄

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べ換えてください。正解者の中から10人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は66ページ）。締切は2007年4月20日。

①	②		③（点線）		④
⑤		■		■	
⑥		⑦			
	■	⑧		■	（点線）
⑨	⑩		■	⑪	
⑫		（点線）		（点線）	

解答 □□□□　ヒント：新入社員が活躍します

↓タテのカギ

①遠山の金さんが見せつけるもの
②動物のオスとメスとの一対
③歯でかんだ時の感触
④互いに組み合って闘うこと
⑦ベテラン
⑩マツ科の常緑高木。トガ
⑪アナウンサーの略

←ヨコのカギ

①鹿児島県出身の男性
⑤明治のジャーナリスト、○羯南（かつなん）
⑥一生をかけた仕事や作品
⑧青い宝石。ガラスの古名
⑨仏教に題材をとった絵画
⑪『レ・ミゼラブル』の邦題は『○○無情』
⑫心から打ち解けられる様子

■前回の答え

モ	ツ	タ	イ	ナ	イ
モ	ガ	■	ツ	■	シ
ノ	ル	カ	ソ	ル	カ
セ	■	ナ	■	ビ	ワ
ツ	リ	ザ	オ	■	ケ
ク	ロ	ワ	ツ	サ	ン

答えは「白酒」

EDITOR'S ROOM

築地通信

●4月号の編集も無事に終わりました。ところで、皆さんは『ライオン』誌創刊号をご覧になったことがありますか？ 1958年7-8月合併号がそれですが、先日改めて目を通す機会があり、じっくり読んでみると、広告から約50年の時の流れを感じました。「小田急ロマンスカー・新宿－箱根間座席指定券130円」「第一ホテル・シングル1泊1100円」。もちろん本編も読み応えは十分です。現在復刻版は300円で発売中。ぜひ歴史を感じてみてください。(吉田)

●先日、取材で名古屋に行かせて頂きました。名古屋に行くのは初めてで、その大都会ぶりに驚きました。地下鉄が何本も走っており、とても複雑です。その地下鉄の車内にデジカメを忘れてしまいました。私物のサブカメラです。「世知辛い世の中だから、出てこないだろう」と思っていました。が、数日後、地下鉄の遺失物係に問い合わせたところ、届いてました。名古屋のイメージ、大幅アップです。好きです、名古屋。(大野)

読者プレゼント

■野口雨情の本を2人の読者に

「ふるさと探訪」(45ページ)に登場した茨城県・北茨城ライオンズクラブから渡邊力編著『童心の詩人雨情乃あしあと』が2人の読者にプレゼントされます。

1882年、野口雨情は現在の北茨城に生まれました。雨情が作詞した「船頭小唄」や童謡「シャボン玉」「七つの子」などは広く人々に親しまれ、全国各地に詩碑が建てられています。磯原雨情会会長である渡邊は雨情生誕120年を記念し、北海道から九州までを行脚してこれらの碑200余基を写真に収めました。多数の資料も加え、温厚な雨情の人柄が感じられる写真集です。

■「ペルジーノ展」チケットを10人に

4月21日～7月1日、東京・新宿の損保ジャパン東郷青児美術館で開催される「甘美なる聖母の画家ペルジーノ展」のチケット(2枚1組)が10人の読者にプレゼントされます。ペルジーノは15世紀イタリア中部に派生した「ウンブリア派」を代表する画家。当時はダ・ヴィンチと比肩する程の名声を得ており、ラファエロはペルジーノを神のごとき人と称え、師と仰いだと言われています。甘美で詩情あふれる作品を、初期から晩年までの作を通じて紹介します。

「聖ヒエロニムスと聖マグダラのマリアをともなうピエタ」ウンブリア国立絵画館

『ライオン』誌日本語版バック・ナンバー

2007年3月号

THEME：青少年Ⅱ
PICK UP：高次脳機能障害
ROAR：332複合地区

2007年2月号

THEME：青少年Ⅰ：ライオンズクエスト
PICK UP：YE
ROAR：331複合地区

プレゼント応募要項

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「雨情」「ペルジーノ」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は4月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
➡ウェブサイトからの応募
www.thelion-mag.jp/modules/form1

次号予告

THEME
クラブ運営を考える

3月4日、青森県・八戸で332・A地区主催、ライオン誌日本語版委員会協力のミニ・フォーラム「クラブ運営を考える」が開催された。岐路に立つライオンズクラブの運営について将来の指針を模索しようというものだ。クラブ三役ら約60人が参加。ブレーンストーミングにより参加者全員が多数の意見を発し検討、ライオンとしての情熱を共有した。

PICK UP
ユニバーシティー・クラブ

東京には同じ大学の出身者や関係者を会員とするクラブが五つある。エクステンションの新たな可能性として注目されるこれら大学クラブの活動を追う。

ROAR・ローア
──まるごと334複合地区

「トピックス」は愛知県・名古屋みなと、岐阜県・羽島、石川県・内灘、静岡葵、長野県・岡谷の各クラブ。「ふるさと探訪」は三重県伊勢市を訪ねる。「伊勢に行きたい　伊勢路が見たい　せめて一生に一度でも」と唄に歌われる程、お伊勢参りは江戸時代の庶民にとっては一世一代の大イベントだったそうだ。そのお伊勢さんこと伊勢神宮では、平成25年に第62回を迎える「神宮式年遷宮」が進行中。20年に1度の大祭とあって、ご当地伊勢では静かな盛り上がりを見せている。

Official publication of Lions Clubs International.

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, JIMMY M. ROSS, PO Box 368, Quitaque, Texas, 79255 USA; Immediate Past President, DR. ASHOK MEHTA, 95 K Bhulabhai Road, Khatau Mansion, Oomer Park, Mumbai 400036, India; First Vice President, MAHENDRA AMARASURIYA, No. 70, Fife Road, Colombo 5, Republic of Sri Lanka; Second Vice President, ALBERT F. BRANDEL, 14 Herrels Circle, Melville, New York 11747-4247 USA.

DIRECTORS
JAN AKE AKERLUND, Hollviken, Sweden; ROY H. BARNETTE, Columbia, South Carolina, USA; PEDRO A. BOTELLO ORTIZ, Monterrey, Mexico; PEI-JEN CHEN, Taipei, Taiwan; SUNG GYUN CHOI, Seoul, Republic of Korea; FRANCISCO FABRICIO DE OLIVEIRA NETO, Catole do Rocha, Brazil; ROBERT J. EICHHORN, Metairie, Louisiana, USA; CLAUS A. FABER, Oberndorf-Lindenhof, Germany; H. DAVID FIANDT, Ft. Wayne, Indiana, USA; RYU FUSHIMI, Yokohama Kanagawa, Japan; JOSEPH F. GAFFIGAN, Silver Spring, Maryland, USA; TERRY GRAHAM, Newcastle, Ontario, Canada; LUIS GUERERRO CARRASCO, Guayaquil Guayas, Ecuador; WILLIAM C. HANSEN, Rochester Hills, Michigan, USA; WAYNE HEIMAN, Manawa, Wisconsin, USA; MIKLOS HORVATH, Budapest, Hungary; SHEIKH KABIR HOSSAIN, Dhaka, Republic of Bangladesh; HOWARD A. JENKINS, Columbus, Mississippi, USA; LELAND R. KOLKMEYER, Wellington, Missouri, USA; ROBERT W. MOORE, Stockholm, New Jersey, USA; GEORGIOS J. “KOKOS” NICOLAIDES, Nicosia, Cyprus; K.G. RAMAKRISHNAMURTHY, Coimbatore, India; DR. BEVERLY A. ROBERTS, Hephzibah, Georgia, USA; RUSSELL SARVER, Durand, Illinois, USA; KENNETH C. SCHWOLS, Loveland, Colorado, USA; MANOJ SHAH, Nairobi, Kenya; STEVEN DALE SHERER, New Philadelphia, Ohio, USA; L. DOUG SIME, Bridgewater, Massachusetts, USA; DJOKO SETIONO SOEROSO, Jakarta, Indonesia; PHILIPPE SOUSTELLE, Ales Gard, France; DAVID E. “DAVE” STOUFER, Washington, Iowa, USA; TORU TANINO, Shimonoseki, Japan; JITSUHIRO YAMADA, Minokamo Gifu, Japan.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　伏見龍・山田實紘・谷野徹
委員長　砂田繁雄（334）
編集長　菊池清二（332）
委員　中島洋吉（330）・古谷野環（331）
笹本瞭（333）・松田毅（335）
尾﨑明雄（336）・井村一男（337）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.（03）3542-9571（代）　FAX.（03）3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

ライオンズクラブとコミュニティー・ケアについて

ライオン誌
日本語版委員
◉
中島洋吉

もし本当にタイムマシンがあったら、皆さんは今、自分が住んでいる場所の過去や未来を訪ねてみたいと思ったことはありませんか?

私は父の代から浅草雷門のそばに生まれ住んで仕事をしていますが、150年前、200年前の浅草を訪ねてみたい、そして地域の人たちと話してみたいと強く思うことがあります。

4年前、テレビ番組「トリビアの泉」のプロデューサーから突然電話があり、ライオンズクラブではお互いの名前を呼び合う時に○○ライオン、自己紹介の時にライオン○○と言うのは本当か、アクティビティとはどんなことをするのかとの質問がありました。更に本当なら実際に取材をしたいとのことでした。この時は暮れも押し詰まっていたため、年が明けた1月初旬、地域の若者たちと合同で実施している浅草寺境内の清掃を取材してもらいました。

これは浅草の商店連合会の若者たちが、毎月1日に浅草寺境内を掃除していた奉仕に、ライオンズの有志が賛同して参加したことが始まりでした。このアクティビティの取材は同年4月に放映され、全国の会員からライオンズクラブの良きPRになったと感謝のお手紙を頂いたことも記憶に新しいところです。

やはりアクティビティも地域の人たちと密接に連携をしながらコミュニティー・ケアを築いていくことが必要と考えます。

さて、話を戻しますが200年後の23世紀、この日本が、またライオンズクラブがどのように変わっているのか想像もつかきません。が、200年の時空を超えてつながる人々の暮らし、また、毎月1日に行われる浅草寺境内の掃除に集まる地域の若者を見る時、子孫たちが私たちと変わらない生き方をつないでくれるであろうとの期待と安堵感が生まれてきます。

ライオンズクラブが日本に入って50有余年、アクティビティの在り方も、もっとコミュニティー・ケアを取り入れたものになるであろうと想像し、期待をしています。